

# 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名  | 藤沢の自然観察ガイド作成事業  |      |  | 団体／担当課  | 神奈川県植物誌調査会藤沢グループ |        |         |
|--|--|---|------|--|---|------------------|--------|---------|
|  | 事業区分   | 市提案協働事業   | 事業年度 | 平成21年度～23年度  | 事業費   | 515,000          | うち市負担金 | 500,000 |
| 2. 事業概要                                      | <p>地球規模での生物多様性が言われて久しいが、一人ひとりが身近な問題として捉えているかはまだまだ疑問である。そこで、藤沢市内各所に点在する自然についての調査を通して得た情報を発信すると共に、植物調査結果を基に地域の特性を踏まえた観察ガイドにまとめ、作成したガイドを基に観察会などを行うことで、数少なくなった「藤沢のみどり」の貴重さを、多くの市民の方々に共通認識してほしいと願うものである。</p> <p>今年度は、今まで観察ガイドがなかった市内北部の自然を、128枚の写真を収録したA5版全カラー16ページにまとめ「藤沢の自然ガイド(12)遠藤笹窪谷 少年の森 &lt;植物&gt;」として作成した</p>   |   |      |  |   |                  |        |         |
|  |  |   |      | <b>団体</b>  | <b>市</b>  |                  |        |         |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果  | 観察ガイドを作るという目標により、植物を精査することになり、植物の生活の計画性やしたかきなどを、更に深く知ることができ、観察会ではより分かり易く、より興味を持って自然に接することができるような様々な観点(環境問題、生物多様性を含む)から説明をおこなうことができる。  |      |  | 従来の業務委託方式での冊子作成は、あくまでも市側で仕様を作成する必要があるが、近年では他業務等との兼ね合いから職員が現場を確認する機会も少なく、変遷していく自然環境を十分に把握できていない状況であった。この協働モデル事業形式にすることにより、企画段階から藤沢市の自然環境に精通した市民の知識が活かされ、観察会等における解説書としても、より活用しやすい冊子を作成することができた。   |                  |        |         |
|  | 定量的効果  | 今年度の調査活動は20回延べ133人で行った。私達の団体の力の基である「多くの目」を使ってできた成果物は精査の賜であると思っている。今回の該当地区では、はびこる侵略的外来種のメリケントキンソウ(キク科 アメリカ原産)の情報を市に伝え、対処要請をした。市内で該当地区以外では見られない植物(ホソバイヌワラビ)もあり、もろい自然への対処なども市と共有できた。 |      |  | 平成23年度の本事業にかかる予算は500千円であり、一方、従前の業務委託方式では、決算ベース(印刷製本費+業務委託費)で平成18年度 488,250+100,000=588,250円<br>平成19年度 173,250+100,000=273,250円<br>平成20年度 181,125+100,000=281,125円<br>となっており、これに市職員による仕様書作成及び調査(週半日調査～年間)のための人件費(0.1人分=人件費単価737千円・公表されている平成20年度数値)が必要であった。<br>昨年、一昨年の報告のとおり、従来の業務委託方式に比べ、単純比較で約50%の費用で作成が出来、団体側の知識・経験・熱意が活かされた形で、充実した冊子を作成することが出来た。<br>また、事業実施に伴う調査活動において、外来種の分布拡大の状況把握などの副産物的な成果もあった。 |                  |        |         |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)  | 成果物の市民への周知が行き届きにくい。観察会の開催は、発行が年度末となるため、どうしても次年度になる。今年度は季節の歩みが特に遅く、自然相手の難しさかもしれない。   |      |  | 成果物の配布については、昨年度、一昨年度の反省(配布時に1部100円以上の藤沢のみどり基金への募金を求めるため、この金銭管理がネックとなり、不特定多数の場所に置く事ができない)から、藤沢市や団体と相互連携関係がある団体等に広く呼びかけ、成果物を先渡しし、後日、募金していただく方法をとり、配布の機会を増やしつある。観察会については、団体との話し合いにより、発行次年度に開催していくこととし、関連がある市民団体等との協力も行っていく必要がある。   |                  |        |         |
|  | 対応策  | 成果物の市民への周知は、該当部署と相談のうえ対処する。観察ガイドを使用している観察会の開催は次年度適時となる。   |      |  | 成果物の配布については、遠藤地区や御所身地区の小中学校での環境教育教材としての需要が見込まれるため、両地区の小中学校との連携を図っていく。また、少年の森での配布が出来るよう調整していく。   |                  |        |         |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | 単年度契約では困難な事が多いが、調査やガイドの作成を3年の協働事業の中で取り組めたのは利点である。最終年度となった今年度後半は市の環境実態調査も始まり、調査と編集で繁忙を極めた。今年度、市内北部の観察ガイドができたことで観察会などを通して、市民の方々に環境啓発と自然周知の手助けを試みたいと思う。   |   |      | 平成23年度で3年間の協働事業による観察ガイドの作成は終了となったが、今後は、3年間で作成した観察ガイドを使用した協働事業団体が関わる観察会を支援していきたい。<br>また、平成23年度から実施している自然環境実態調査においては、植物調査において当該団体の全面的な協力をいただいており、本年度も引き続き協力をお願いしている。 |   |                  |        |         |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイド作成が目的か ガイドブックを活用する目的が不明 23年度作成した1700部はどのように使われたのか、配布先は、又はどのように使う予定なのか？</li> <li>・募金100円を集めるのであれば他にも方法があると思うが団体グループは何名か？ガイドはどこに置いてあるか？写真や大きさなど工夫してあり、携帯しやすさなどよくできていると思う。</li> <li>・都市化の中で自然を守るための活動は地道であり、観察は時間を要すると思います。その中で自然観察ガイドは立派な成果物です。ただし、観察会や市民への広報活動、周知の場を増やしてほしいと思いました。</li> <li>・地域にとって貴重な資料が整理できたと評価できる。観察会・成果物の配布を通して成果の市民への共有について考えてほしい。市民に対する啓発など今後の取り組みに期待したい。</li> <li>・成果物の活用が重要だと思います。単に関係団体に配布するだけではなく、観察会だけでなく、少年の森利用者へのミニ説明会など、多くの方に利用される工夫をお願いします。</li> <li>・とても良い協働事業だったと思われる。成果も上がっている。</li> </ul> |   |      |  |   |                  |        |         |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 事業名 | 藤沢の自然観察ガイド作成事業   |
| 団体名 | 神奈川県植物誌調査会藤沢グループ |
| 担当課 | まちづくりみどり推進課      |

【採点基準】

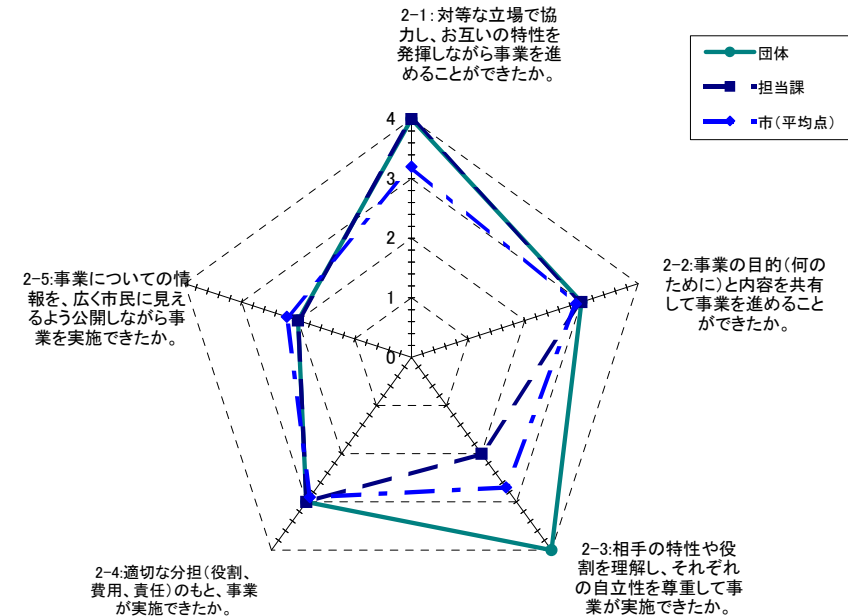
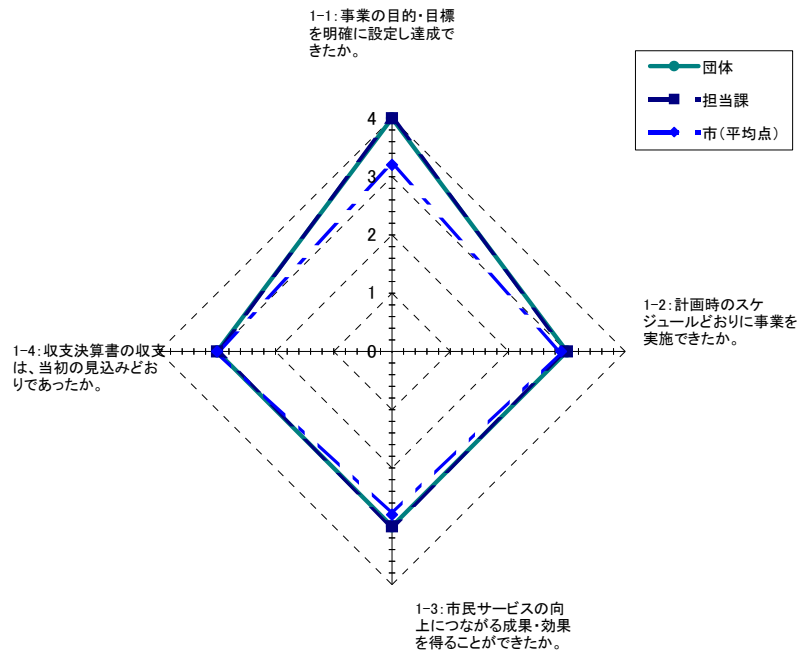
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 4  | 4   | 3.20   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 3  | 3   | 2.90   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.80   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 3  | 3   | 3.00   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 4  | 4   | 3.20   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 3  | 3   | 2.90   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 4  | 2   | 2.70   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 3  | 3   | 2.90   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 2  | 2   | 2.20   |



## 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名   | メールマガジン配信事業  |      |   | 団体/担当課   | (特非)地域魅力 |        |         |
|--|---|--|------|---|--|----------|--------|---------|
|  | 事業区分  | 市提案協働事業  | 事業年度 | 平成21年度～23年度   | 事業費  | 600,000  | うち市負担金 | 600,000 |
| 2. 事業概要                                      | 市の発信する情報をメールマガジンとして提供する。読者が興味を持って目を通すような内容づくりに心がけ、親しまれるメールマガジンを配信する。そのために、市民の視点から生活に必要な有益な情報が流れるような仕組みづくりと働きかけを実施していく。市民が自身にとって有益な行政サービスや情報にふれることにより、地元自治体への愛着と理解を深め、地域との関わりが促進されることを目指す。また、本団体が関わる市の情報発信(防犯情報、子育て情報、環境に関する情報など)の複数の事業を連携させる足がかりとし、それぞれの情報や参加者をニーズに応じて行き来させるなど、よりの確で利便性の高い情報配信サービスを実現し、市民生活の向上を図る。  |  |      |   |  |          |        |         |
| 団体   |   |  |      | 市   |  |          |        |         |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果   | <p>(広報ふじさわダイジェスト)<br/>                     毎号の掲載記事をインデックス化したものを、広報発行日(毎月10日、25日)に配信し、紙面閲覧への誘引を図ることができた。また、その月や時期の話題について「今月の便り」として、団体が独自に選択した情報や一口コラムを掲載した。<br/>                     (ベジフル湘南通信)<br/>                     ベジフル湘南での野菜の直売情報や関連事業者様各店舗の商品などを魅力的に取り上げ、イベント等と合わせてアピールすることができた。藤沢市地方卸売市場の指定管理者である「メルカド(市場)湘南グループ」と直接協力・調整して、配信の日程も固定化し、スムーズなメルマガ作成及び編集、配信を行うことができた。また、市場の独自ホームページの運用や更新、ツイッターを活用した情報発信の支援も行った。<br/>                     (健康ナビ)<br/>                     担当の地域保健課と協力し、携帯電話で読むメルマガに適した形で情報に編集するなどして配信できるようにした。</p> |      |   | <p>広報ふじさわと連携し、メールマガジンの周知に努めるとともに、利用者向けのアンケート調査の結果を踏まえた「休日・夜間などの急患診療」に関するメールマガジンを配信するなど、いただいた意見を反映することができた。</p>   |          |        |         |
|  | 定量的効果   | <p>(広報ふじさわダイジェスト)<br/>                     配信回数…24回 *震災臨時号を含む<br/>                     (ベジフル湘南通信)<br/>                     配信回数…24回<br/>                     *ツイッターによる情報発信…130投稿(NPO・市場側合計:2011年2月より)<br/>                     (健康ナビふじさわ)<br/>                     配信回数…13回</p>  |      |   | <p>配信メールマガジン数 11<br/>                     エビメール、藤沢市議会のお知らせ、広報ふじさわダイジェスト、おいしいふじさわ産通信、ベジフル湘南通信、健康ナビふじさわ、ふじてんニュース、防災・気象情報メール、休日・夜間などの急患診療(防犯対策システム、子育てメールふじさわ)<br/>                     登録者数(2012年3月31日現在)<br/>                     18,428人<br/>                     投稿記事数(防犯対策システム、子育てメールふじさわは除く)<br/>                     82回(防災・気象情報メールは受信者により条件が異なるため未集計)</p> |          |        |         |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)   | <p>① あくまでも市のメールマガジン配信ということで、市民目線での情報を付与して発信することや、独自に収集した情報を掲載することが可能ではなかった。<br/>                     ② 協働事業として、市とNPOが力を合わせることによる相乗効果が模索できなかった。<br/>                     ③ 藤沢市地方卸売市場のホームページやツイッターによる情報発信については、市場の民営化に伴って指定管理者の業務が終了し、団体としてはその後の展開につなげることができなかった。</p>  |      |   | <p>市民が選択できるメニューを増やし、より多くの方々にメールマガジンを配信できるようにするという点では、満足のできる内容となったが、文字のみで情報を発信していかなければならない媒体であるため、地域魅力が持つ編集力を十分に発揮できる内容とはならなかった。</p>  |          |        |         |
|  | 対応策   | <p>① 発信情報の責任の所在を明確化するなど、藤沢市に関する市民目線での情報発信や、市が主催する以外のイベント情報等の掲載、配信についてもできるメールマガジンが別途存在すると良い。<br/>                     ② 協働事業にすることでより効果が高いものについて、引き続き事業化がおこなわれると良い。<br/>                     ③ 特になし。</p>   |      |   | <p>市民のみなさんが必要な情報を、的確なタイミングで送信するという、当たり前のことがいかに重要で、求められていることということが震災時に再認識できた。<br/>                     市としてできる当たり前のことについて、メニューの増加を含めて継続して取り組んでいきたい。</p>   |          |        |         |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>3年間の協働事業で培ったノウハウや、市のメールマガジン配信事業を遂行してきたという経験、実績をもとに、類似の手法で情報発信をしたいと考える企業や団体に働きかけ、地域の情報発信を支援するような事業を持つことができたらと思う。</p>  |  |      | <p>地域魅力のみなさんと協働事業で行ってきた経験をもとに、多様な媒体を活用した市からの情報発信について、検討、研究していきたい。</p> |  |          |        |         |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <p>・登録者数の推移はどんな傾向か? 増加してあたりまえ(登録はしたが、削除する人は少ない)<br/>                     ・独自収集の情報を(市民目線)発信できなかった(市のメルマガだから)制約されたという事か? 言い訳に聞こえる⇒自らの評価も低い⇒市も苦しい評価を出している<br/>                     ・機械的な編集に留まっている、内容を充実させれば必然的に登録者が増えると思う。メルマガの登録推進方法を検討してほしい。利用者・登録数が少ない。<br/>                     ・メルマガ配信利用者も増え、地方卸売市場HP運営、ツイッター情報提供など幅広く活動されていると思います。利用者アンケートや分析などがあれば、今後メニューを増やす意味で役立つと思います。<br/>                     ・3年目の事業として配信事業をきっちり行ったという印象がある。配信事業を通して市民活動団体が蓄積したものを今後活かしてほしい。市民の視点での情報発信に関わる困難が何か。市民発のメディアと市の情報提供のあり方に考えさせられた。今後どうされるのか?メルマガの配信はされています。委託事業になったのですか?予算執行等不明な点が多いように感じます。<br/>                     ・大変有効性が期待される事業と思うが、まだまだ発展させる課題があると思う。人口比に対し、利用者数はまだまだ不十分と感じました。・市が発信するメルマガをもっと宣伝すべきだと思う。今後は確実に増えていく分野と考える。</p> |  |      |   |  |          |        |         |

|     |             |
|-----|-------------|
| 事業名 | メールマガジン配信事業 |
| 団体名 | (特非)地域魅力    |
| 担当課 | 広報課         |

【採点基準】

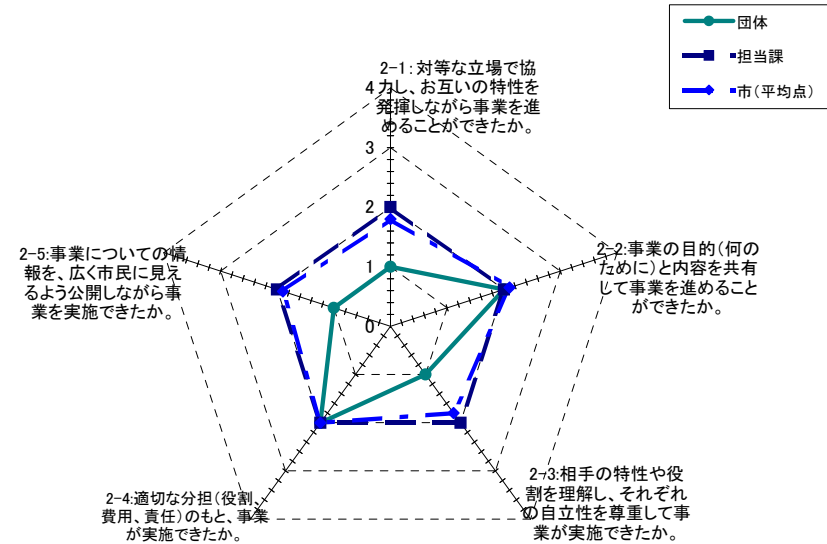
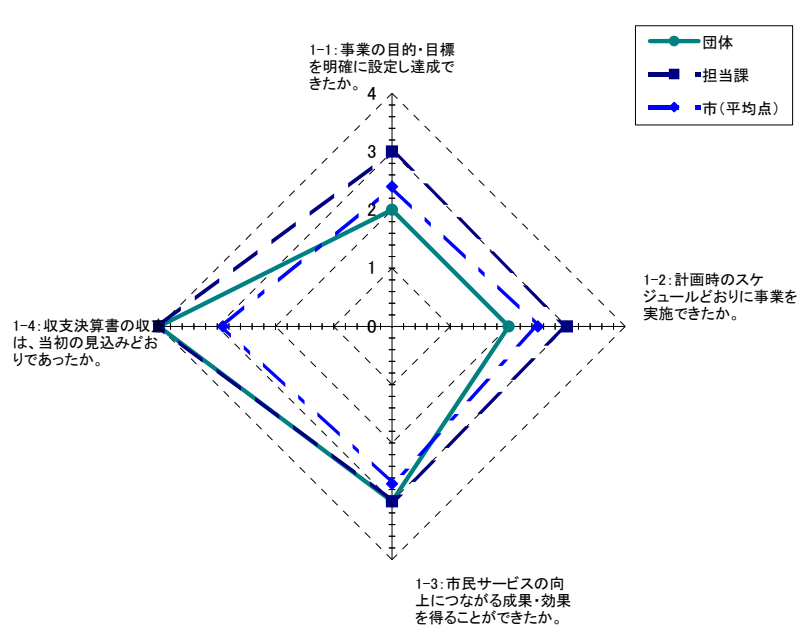
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 2  | 3   | 2.40   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 2  | 3   | 2.50   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.70   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 4  | 4   | 2.90   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 1  | 2   | 1.80   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 2  | 2   | 2.10   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 1  | 2   | 1.80   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 2  | 2   | 2.00   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 1  | 2   | 1.90   |



## 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名  | 応急手当普及啓発推進事業   |      |  | 団体／担当課   | (特非)ふじさわ救命普及推進会 |        |           |
|--|--|--|------|--|--|-----------------|--------|-----------|
|  | 事業区分   | 市提案協働事業  | 事業年度 | 平成22年度～24年度  | 事業費  | 2,373,161       | うち市負担金 | 2,360,000 |
| 2. 事業概要                                      | <p>本市では、平成6年度から市内のどこで傷病者が発生してもその場に居合わせた人の中の5人に1人は応急手当の技術取得者がいるように、市民人口の20%(約80,000人)を目標に応急手当の普及啓発事業を推進しています。</p> <p>また、平成21年度からは市内全中学校(19校)を対象とした応急手当教育を実施しております。</p> <p>本事業は消防職員と市民活動団体が協働し一般市民を対象とした普通救命講習及び中学生を対象とした応急手当教育を実施し、応急手当の普及啓発を推進するものです。</p>  |  |      |  |  |                 |        |           |
| 団体   |  |  |      | 市  |  |                 |        |           |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果  | <p>1 年間を通じて大勢の市民の皆様に応急手当の重要性や、応急処置について直接伝える事が出来ました。</p> <p>2 アンケート調査を実施した事により、救命普及啓発活動に対する市民の声を確認する事が出来ました。また受講生側からの意見を聞く事により指導内容のチェックや今後の指導者教育の指針とする事が出来ました。</p>          |      |  | <p>1 応急手当の必要性をより市民に身近な当該法人会員が訴えていただいたことによる市民の救命意識の向上</p> <p>2 救急車の適正利用などについても、講習の中で訴えていただき、救急需要対策の一助となった</p>   |                 |        |           |
|  | 定量的効果  | <p>当法人の講師が3,600人(昨年比600人増)の受講者を指導しました。(講習会では1名で10人の受講者グループを指導します。)</p>   |      |  | <p>当該NPO法人から派遣された講師360人分を職員で対応した場合<br/> <math>360 \times 2,800 \text{円} (\text{時間外勤務手当}(125/100 \text{消防職員平均}) \times 4 \text{時間})</math><br/> <math>= 4,032,000 \text{円} - 1,234,000 \text{円} (\text{収支予算書人件費相当額}) = 2,798,000 \text{円}</math><br/>                     上記下線部分の時間外勤務手当の抑制に繋がった。</p> |                 |        |           |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)  | <p>2011年度は指導の「質」について取り組むため、アンケート調査を実施し比較的良好な結果を得るとともに指導者としての課題も見えてきましたが、外へ向けての講習会指導に関する事業展開は出来ませんでした。当法人を更に発展させるためには、消防サイトからの依頼講習だけではなく積極的な講習事業を展開する必要があるのではないかと感じました。</p> |      |  | <p>アンケート調査の結果などを当該NPO法人から提供を受け、今後の救命講習での指導方法なども含め、応急手当普及啓発事業の推進に参考とすることができたが、市民指導者である方々との意見交換については、これを除き実施することができなかったため、昨年度の反省点への対応策であった「講義手法への積極的な関与など、講師派遣以外についても協働して推進する」について、十分とは言えない対応であった。</p>   |                 |        |           |
|  | 対応策  | <p>私達の応急手当普及員という資格は、消防の事業である「普通救命講習」における指導資格であり、消防との連携は必要不可欠です。そのような環境下で更なる事業展開が可能か消防サイトと十分に協議検討していきたいと思います。</p>   |      |  | <p>当該NPO法人と頻りに意見交換し、市民に対する応急手当普及啓発についてより連携して推進する。また、本事業終了後の体制や当該NPO法人の事業方針なども意見提案していく。</p>   |                 |        |           |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>アンケート調査を継続し講習指導の質を高めるための法人内研修会を強化する。</p> <p>・当法人の講習事業展開について消防本部と協議検討を行う。</p>  |  |      | <p>・当該NPO法人の普及員が指導する機会をさらに広げていく。</p> <p>・上記と併せて、講習指導の質の確保に消防がより関わり、講習指導体制等の環境整備を図る。</p> <p>・当該NPO法人の事業方針への意見提案など、応急手当の普及啓発活動について、密に連携し、新たな協働も検討する。</p> |  |                 |        |           |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <p>・私は、AEDの存在は知っているものの、どのような時に、どのように使用するのか理解していません。自然豊かなまちである(海あり、山あり)それだけに応急処置を必要とする局面も多いと思う。一層の普及啓発活動を期待する。</p> <p>・収支決算書支出の部の予算の際、区分が空白なのはどうか？講習を受けた市民は合計何名か？</p> <p>・私は市内民間企業に勤務しております。昨年度より普通救命講習Ⅰを消防職員を派遣していただいて実施し、有意義な活動であると実感しております。応急手当普及員が活躍され、今後の活動も期待しています。またAED設置推進に関し、救急セーフティステーション交付制度があります。救急セーフティステーションは市役所を始め公共施設、大きな商業施設がほとんどです。当該施設の有資格者(受講者)20%という条件があるため、今後も普及啓発を推進していただきたいと思います。</p> <p>・市民活動団体と市との目的が合致した事業で、双方がそれぞれの強みを活用できた事業だと思う。市は、応急手当普及員が増えたことで、どう安全安心に結びついたか、その成果を検証することが求められる。</p> <p>・大きな役割を担ってくださっている様子が理解できました。・有意義な活動だったと思われる。今後も継続していくべき事業。</p> <p>・大変重要な事業だと思います。質の向上も大切ですが、まず取り掛かりが重要かと思います。中学生対象の講習をぜひ継続して欲しいと思います。</p> |  |      |  |  |                 |        |           |

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 事業名 | 応急手当普及啓発推進事業    |
| 団体名 | (特非)ふじさわ救命普及推進会 |
| 担当課 | 救急救命課           |

【採点基準】

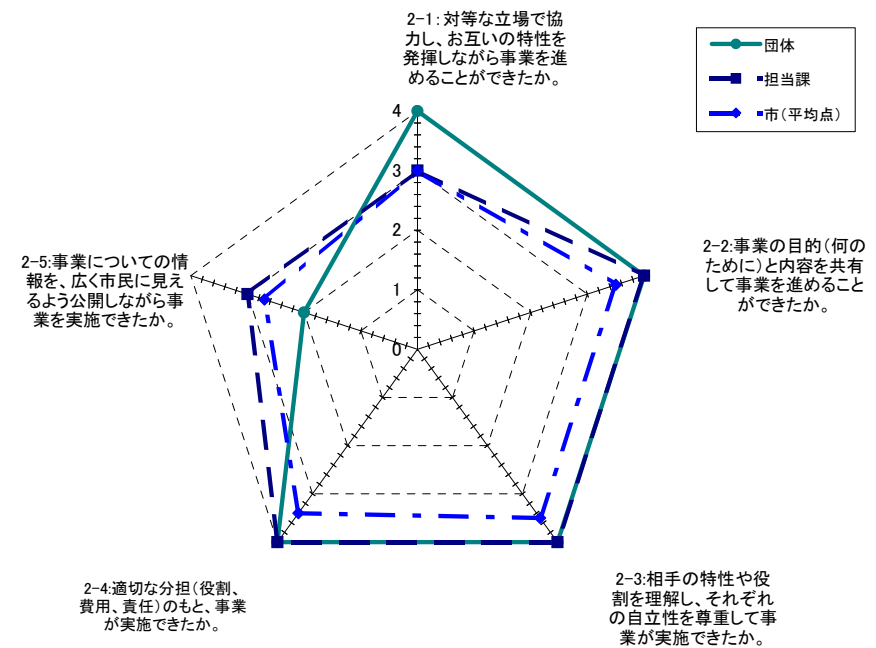
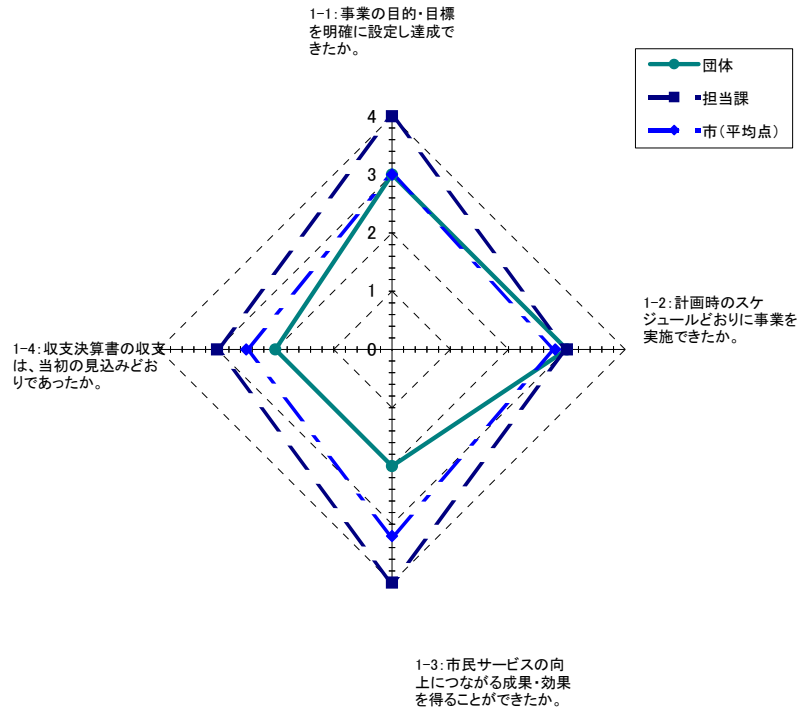
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 3  | 4   | 3.00   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 3  | 3   | 2.80   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 2  | 4   | 3.20   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 2  | 3   | 2.50   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 4  | 3   | 3.00   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 4  | 4   | 3.50   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 4  | 4   | 3.50   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 4  | 4   | 3.40   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 2  | 3   | 2.70   |





## 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名  | 農商校連携 地域食理解推進普及事業  |  |      | 団体／担当課      | (特非)地域魅力  |     |           |        |           |  |
|--|--|--|--|------|-------------|---|-----|-----------|--------|-----------|--|
|  | 事業区分   | 市提案協働事業  |  | 事業年度 | 平成22年度～24年度 |   | 事業費 | 1,002,690 | うち市負担金 | 1,000,000 |  |
| 2. 事業概要                                      | <p>藤沢市内で生産されている食材について、昨年度、市民活動団体と市が協働で作成した教材(藤沢の食材もの知りブック)を市内全公立小学校の5年生に配布。今年は昨年度の給食用14品目に6品目(ぶどう、なし、かたくちいわし、小麦、牛肉、豚肉)を追加した「藤沢の食材もの知りブック【拡大版】」を作成し、市内の全中学校に5部ずつ配布。そして、教材で学んだ食材を活かしたレシピコンテストを実施。小学5年生対象の「給食で食べよう部門」と、高校生以下が対象の「みんなで食べよう部門」の2部門で開催。最優秀メニューについては、平成24年度の学校給食のメニュー化を予定している。</p> <p>&lt;対象&gt;給食:市内小学5年生(公立全35校 117学級 3,847名) みんな:市内全中学生(公立全19校 309学級 10,272名)</p> <p>&lt;応募数&gt;給食:16点 みんな:1点</p> <p>&lt;入賞&gt;最優秀賞1点、その他入賞9点</p>  |  |  |      |             |   |     |           |        |           |  |
| 団体   |  |  |  |      | 市           |   |     |           |        |           |  |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果  | <p>① 市内の小中学生に、給食や家庭の食卓で馴染みの深い、地元の食材について興味関心を高め、学習する機会とツールの提供をすることができた。また、子供を通じて家族とも、藤沢の食材やレシピについて会話をする機会が生まれた(レシピ応募用紙記載内容、生産現場見学ツアーやレシピコンテスト参加者の感想などより)。</p> <p>② 本事業で作成した食育冊子「藤沢の食材もの知りブック」について、問合せも多くなりました。市内内外の食や農水産業に関するイベント等で展示・紹介すると、手に取り持ち帰る人も多く、藤沢の食材の幅広い認知理解促進に役立てることができた。また村岡中学校の中学2年生に食育のテキストとして、授業内で配布された。</p> <p>③ 今年度の最優秀賞以外のメニューについても、学校ごとに個別に給食メニュー化を希望するという希望があり、メニューを考えた子どもが通う小学校で給食メニュー化ができるよう検討が進められている。</p> <p>④ 昨年度の最優秀賞作品は、2011年12月に給食メニューとなり、市内の全公立小学校で提供された。</p> <p>⑤ 今年度は、7月に専用サイト(<a href="http://www.chikimiryoku.jp/recipe.html/">http://www.chikimiryoku.jp/recipe.html/</a>)を開設し、食育冊子のWeb掲載や審査結果、生産現場見学ツアーの様子、応募されたレシピで地産地消レシピ集を随時更新した。</p> |  |      |             | <p>今年度から事業を拡大し、中学校でも事業の周知を行ったことから、市内小中学校における食育・地産地消に関する認識の啓発を行うことができた。また、昨年度の最優秀賞作品が市内公立小学校全校で給食として提供されたことにより、食育・地産地消の啓発を行うとともに、市内農水産物の使用も促進された。今年度の最優秀賞作品についても学校給食におけるメニュー化が決定しており、更なる市内農水産物の使用促進が図れた。</p> |     |           |        |           |  |
|  | 定量的効果  | <p>作成した食育冊子:給食で提供可能な食材14品目を載せたものを4,000部(全て市内公立小学校へ配布)、上記の14品目にぶどう・なし・豚肉・牛肉・かたくちいわし・小麦を加えた拡大版を1,000部(市内中学校などに配布)</p> <p>メディア掲載:日本農業新聞3回、レディオ湘南1回</p>  |  |      |             | <p>給食実現可能のあるレシピ数 13 件</p> <p>※最優秀賞は平成24年度に全校で実施予定。その他作品も一部の学校で実施済み</p>  |     |           |        |           |  |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)  | <p>① 「みんなで食べよう部門」の応募が少なかった。</p> <p>② 生産現場見学ツアーや最終審査への妹弟の同伴についての問合せが多かった。</p> <p>③ 優秀レシピの飲食店でのメニュー化については様々な考え方があり、年度内に飲食店で提供できなかった。</p>   |  |      |             | <p>① 事業に関するPR、広報活動について、特に今年度から開始した飲食店部門について周知不足であったため、レシピコンテストの認知度が低く、応募が少なかった。</p> <p>② 優秀メニューについて、飲食店での商品化が実現しなかった。</p>   |     |           |        |           |  |
|  | 対応策  | <p>① 各学校を通じた呼びかけや広報ふじさわだけではなく、過去の参加者へお知らせを送付するなど複数のルートからアプローチをかけていく。</p> <p>② バスの座席数や調理室の安全管理を考慮し、予め案内などに明記する。</p> <p>③ メニュー化を検討する店舗の事前エントリーなど、顔が見える形での飲食店展開方法を検討する。</p>   |  |      |             | <p>事業の進捗状況に合わせた情報公開や関係機関などとの情報共有を広げていく。また、募集について、対象を拡大するとともに、周知方法について綿密な計画を検討する。</p> <p>② 市内飲食店等(利用推進店を中心に)に事業内容を事前に周知し、予め協力してもらえる飲食店を募り、審査段階から審査後も含めて関わりをもってもらう中で、商品化に向けて具体的な方法を検討する。</p>                  |     |           |        |           |  |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>・本事業への関わりを通じて、藤沢市内の農水畜産物の豊かさに改めて目の当たりにし、一方で地域食材への市民の高いニーズにも気づくことができた。今後は、地域食理解推進普及を団体の主要事業として位置づけ、協働事業以外の独自事業の展開も視野に入れていきたい。</p> <p>・食育冊子について、今年度は村岡中学校から、昨年度は藤沢市市民活動推進センターから問合せがありどちらにも食育の教材として提供をしたことから、価値ある食育冊子をさらに多くの人に手に取ってもらえるよう工夫をしていきたい。</p> <p>・今年はレシピコンテスト当日、各学校の校長先生や栄養士さんなどが来場し、子供と保護者が調理を行ったり、できあがった料理を展示し、お互いに試食しあったりする様子を直接見てもらうことができた。来年は、飲食店関係者にも声を掛け、飲食店でのメニュー化につなげていきたい。</p>   |  |  |      |             |   |     |           |        |           |  |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <p>・地産・地消という言葉の知名度は高いと思うが、内容を知っている人は必ずしも多くないのでは？ 縦割りの活動には限界がある、行政・団体が横の連携を取って面の展開ができないだろうか。</p> <p>「みんなで食べよう部門」の応募活動方法はどんなことをされたのか？ コンテスト参加者が少ない。</p> <p>・食育や地産地消を目的として協働で作成された教材はわかりやすく良いと思います。増刷販売してはいかがですか？ ・レシピコンテストの応募が少なかった事は広報活動の周知不足だけなのか？ 冊子を作成し充実されている感じがする。達成度が高すぎる気がする。</p> <p>・みんなで食べよう部門の応募1件だったのは周知が足りなかったのでしょうか？ (対象を広げる、PR広報活動期間を長くするなど) ・今年度のイベントの数値目標がわかりませんでした。学校の成功をお祈りしています。学校給食メニュー化も楽しみですね。</p> <p>・給食部門とみんなで食べよう部門との結果・成果の差はどこから生じたのか検証して今後の活かしにしたい。また、同一団体が行っている市との協働事業の差も明確にして、市と市民活動団体との協働に活かしてほしい。生産者との交流は子どもにとって貴重な体験と評価した。</p> <p>・何やら詰めが甘いように思います。お金の管理もこの報告では団体・行政ともに疑問を感じます。 ・立派な冊子ではしたが、それが効果的に利用されているのか。継続していくべき事業なのか疑問。</p> <p>・PR不足だと思う。小学校は給食で対応できるが、中学校は教育課程(授業)の中で取り組めるかが課題だと思います。ただ単に地産地消といってもなかなか厳しい。地方では農業高校が新しいメニュー(レシピ)作りなどの報告がある。新しい取り組みに期待します。</p> |  |  |      |             |   |     |           |        |           |  |

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 事業名 | 農商校連携 地域食材理解推進普及事業 |
| 団体名 | (特非)地域魅力           |
| 担当課 | 農業水産課              |

【採点基準】

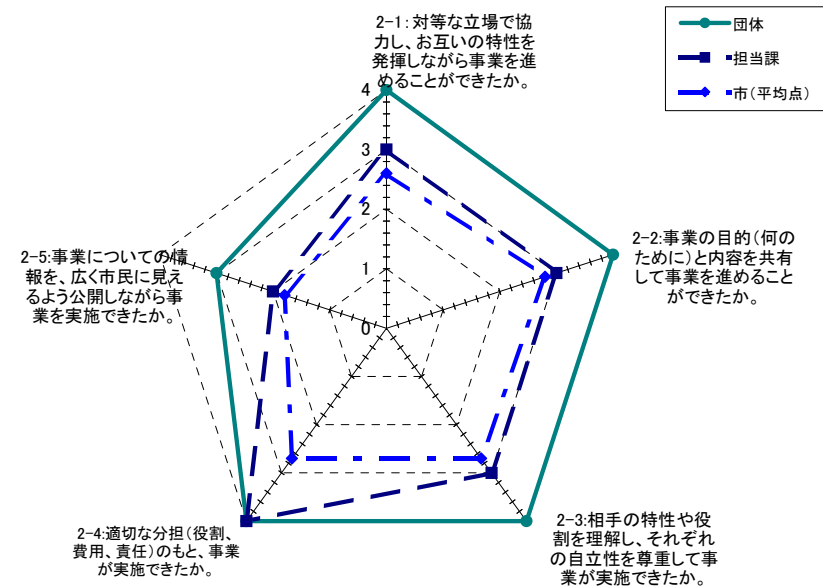
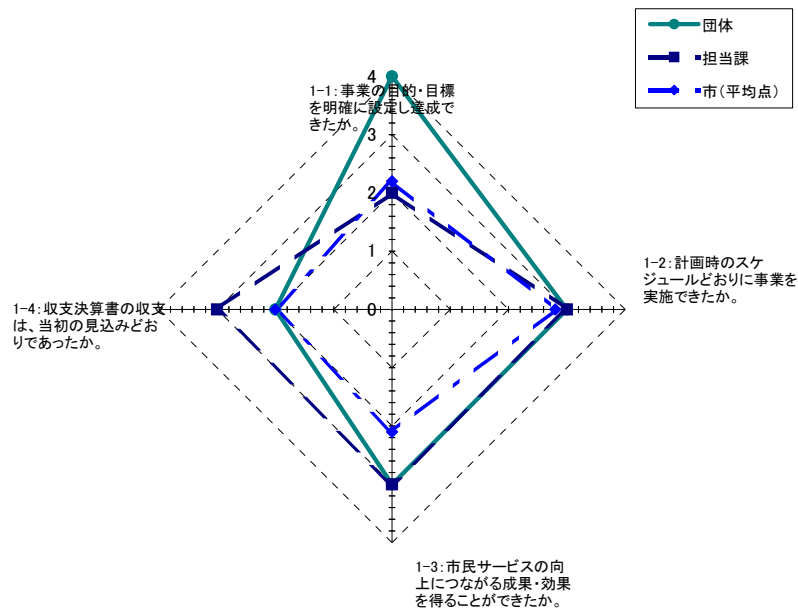
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 4  | 2   | 2.20   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 3  | 3   | 2.80   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.10   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 2  | 3   | 2.00   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 4  | 3   | 2.60   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 4  | 3   | 2.80   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 4  | 3   | 2.70   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 4  | 4   | 2.70   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 3  | 2   | 1.80   |





# 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名  | 「健康メッセ」の協働開催事業  |      |   | 団体／担当課   | (特非)湘南ふじさわシニアネット |        |         |
|--|--|---|------|---|--|------------------|--------|---------|
|  | 事業区分   | 市提案協働事業   | 事業年度 | 平成22年度～24年度   | 事業費  | 740,000          | うち市負担金 | 490,000 |
| 2. 事業概要                                      | <p>本事業は、藤沢市健康増進計画(平成22年～26年、5年間)の施策推進の一環として、市民活動団体との3年間にわたる協働事業として平成22年度から開始されたものである。本年度はその第2年目にあたる。</p> <p>本事業は、藤沢市民の健康づくりを目的に、市民活動団体との協働による市民側に立った企画実施を進めることで、市民への健康づくりに関する普及・啓発をより身近に、より楽しく行おうとするものである。更にその機会を捉え、地域における市民活動団体等の紹介を行い健康増進のために市民の地域活動団体への参加を広く促すものである。</p> <p>本年度の会場は、昨年より広いフロアを有する秩父宮記念体育館で開催し、市民団体21団体(前年比+3)、企業17社(新規)、大学3団体(新規)、計41団体の参加を得、来場した市民は約1,200名の成果を得た。</p>  |   |      |   |  |                  |        |         |
| 団体   |  |   |      | 市   |  |                  |        |         |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果  | <p>1)メッセ開催にあたり、藤沢市医師会等をはじめとし保健医療財団やみらい創造財団など市および県の関連機関など多くの保健医療専門機関の参加とご協力・ご支援があり、健康メッセは市の総合健康イベントとして2回目の実施ができた。</p> <p>2)今年度もこのイベント開催事業を通して、健康に関する市の様々な情報と活動を知る機会が持たると同時に、市民としてまた市民団体として健康施策に関し率直に意見交換をすることができ、市民のためのメッセ開催企画に反映することができたと考えている。</p>   |      |   | <p>1)協働事業としての実施という点においては、イベントにいたる経過の中で、多くの議論を行い、市民目線・市民活動団体目線で、企画を行うことができた。</p> <p>2)イベントの実施にいたる検討のなかで、多くの団体や機関と情報交換や意見交換を行い、藤沢市の健康づくりの推進にむけての取組みになった。</p> <p>3)藤沢市健康増進計画にある、「健康づくりを支援するしくみづくり」に取り組むことができた。</p>  |                  |        |         |
|  | 定量的効果  | <p>1)来場した市民のアンケート結果によれば、自身の健康への気づきは来場者の74%にのぼり、昨年と同様に市民の健康への動機付けの機会とすることが出来た。また同時に、継続した開催などを希望するご意見も多かった。</p> <p>2)今メッセに参加した団体は、市民活動団体(21団体。前年比+3)に加え、新たに企業(17社)や大学(3団体。慶大2、湘南工大1)に参加いただき、昨年の2.2倍の数になり、幅広い団体(運動、文化芸術、福祉等)の参加を得ることができた。</p> <p>3)また開催を支える市民サポーター23名や学生ボランティア23名のご支援も得て、市民と市民活動団体が主体のメッセ開催にできた。</p> <p>4)3月に起きた東日本大震災の被災地への支援活動として、被災地3県(岩手、宮城、福島)の物産販売は完売(計105,120円)することができ、またメッセ実行委員会として収入から寄付(15,000円)の拠出を行うことができた。</p>        |      |   | <p>1)来場者数が1,200名と、市民への健康に関する普及啓発に役立ったと評価している。</p> <p>2)開催にあたっては、共催・協力団体17団体、参加した市民活動団体21団体、参加企業17社、協賛企業9社、健康サポーター(ボランティア)46名、と多くの市民、団体、機関、企業等との協力により実施することができた。</p> <p>市の体制においても、健康づくり推進会議にかかわる関係各課、財団の協力を得て、実施することができた。</p>   |                  |        |         |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)  | <p>1)東日本大震災(3/11)のため、立ち上がり作業に大きな影響が発生した。</p> <p>本年度当初の市の緊急事態への対応作業が重なり、メッセの企画や団体・企業募集等の遅れが出て、団体・企業との共同企画に十分な時間が割けなかった。また企業からの広告集めや市民への広報宣伝にも十分な対策が取れなかった。</p> <p>2)会場が昨年の市民会館から秩父宮記念体育館に変わり、会場設置の不慣れと共に、前日の会場準備と当日の撤収に厳しい時間的制約があり、運営計画作成と実施に大きな負担が発生した。</p> <p>3)参加団体が増加したことに伴い、団体の希望する紹介活動の内容に保健衛生上の課題(試食・試飲や効能説明、施術方法の確認など)が発生した。事前のルール説明があいまいであったこともあり、1団体の辞退と紹介内容の直前までの確認作業が発生した。</p> <p>4)メッセ開催2年目の慣れが市と団体双方にあり、相互のコミュニケーションに一部支障があった。</p> |      |   | <p>1)全体の来所人数は1,200人であったが、来所者が興味を持って参加してもらえるコーナー(測定等)と、立ち寄ってもらえないものとの差が大きかった。</p> <p>2)内容が充実していた反面、盛りだくさんで、1階から4階まで会場が分散し、同時並行に様々な催しが行われていることにより、メインフロア以外への来客が少なかったこと、スタッフの人員を調整することが難しかった。</p> <p>3)市民へのPRと、人の流れの調整が課題である。また、同時に、健康に関心がやすい人、若い世代への働きかけが課題としてあげられる。</p> |                  |        |         |
|  | 対応策  | <p>1)開催規模が大きくなりつつあるので、開催日や会場の固定化を進め、運営ノウハウの蓄積や共有化を十分に進めることを検討する。</p> <p>2)団体の参加条件を更に明確に定め、募集時に周知する検討を進める。</p>   |      |   | <p>1)会場設計の問題もあると思われる。次回は、会場配置を工夫し、課題解決を行ってきたい。</p> <p>2)健康づくり応援団事業を充実させ、健康メッセサポーターのさらなる活躍に期待したい。</p> <p>3)参加団体、企業等によるロコミやチラシ配布など、全体で盛り上げてPRしてきたい。</p>  |                  |        |         |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>1)健康メッセ開催事業は、来年度が第3回の最終年を迎える。</p> <p>内容的には、今年度までの2回の開催の反省点・課題等をよく吟味し、特に市民活動団体と密な連携をし、市民の健康維持・増進につながる共同企画の充実を進めたい。</p> <p>運営面では、メッセ開催規模の拡大とともに推進・実行体制の見直し、強化が必要である。次回開催に向け抜本的な検討を行い、メッセ最終回を成功させたい。</p> <p>2)健康メッセの開催は1日であり、市民が健康を考えるきっかけとしての機会としての役割・内容は果たせつつあるが、やはり多くの市民の参加が肝心である。そのためには広報宣伝法に一層の工夫と知恵を注ぎ、様々な試みで来場者を増やしていきたい。</p> <p>3)来年以降のメッセ開催案を、関係団体等と議論して実現にむけ具体的な行動を起こしていくことを考えたい。</p>  |   |      | <p>初めて準備する会場、参加団体、企業等の増加といった事情もあり、準備が大変で本年度も市のかかわりが大きかったと考えられる。市民を中心とした実行委員会の役割を今後大きくすることで、市は本来の専門性を生かし市民協働のメリットをより大きくすることができると思われた。</p> <p>市民活動団体や企業、健康ボランティアと協働した今回のイベントは非常に有意義であり、今後も協働して健康増進計画に掲げた5分野の健康づくりの推進について市民の健康づくりを支援する取り組みを推進していきたい。</p> |  |                  |        |         |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <p>・年1回のイベントではもったいない。運営側の負荷は増えるが、他の健康・スポーツ関連のイベントと連携して、健康ウイークとか健康月間とか面を広げて全年代の人達の興味を喚起できないだろうか。</p> <p>・市民の健康への気づきのきっかけになり、良い企画事業だと思います。今後も継続していただきたい。若年層への拡大も期待しています。</p> <p>・健康メッセ来場者:60代23%、70代22%、50代13%と、特に高齢の方に関心が高いと思います。しかし、参加団体やサポーターの参加者は学生や若い世代ということで更なる発展が期待されると思いました。市民の健康づくりと普及啓発を広く促す活動として、健康メッセは大成功だと思います。</p> <p>・メッセ事業の開催の過程で得られた多様な団体との関係や市民の参加と今後の活動に活かすことが期待される。目的を達成するための経理的な取り組みを考えてほしい。</p> <p>・健康問題は大変関心が高く、重要な課題だと重います。イベント参加者は現行が妥当な数だと思う。一番の関心は、測定と相談、体験へつなげるシステムを工夫しないと全体進行に偏りが生じるのは経験している通りだと思う。高齢者の参加が多いと思います。セットメニューで参加できるような工夫・広報が大事だと思います。</p> |   |      |   |  |                  |        |         |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 事業名 | 「健康メッセ」の協働開催事業   |
| 団体名 | (特非)湘南ふじさわシニアネット |
| 担当課 | 地域保健課            |

【採点基準】

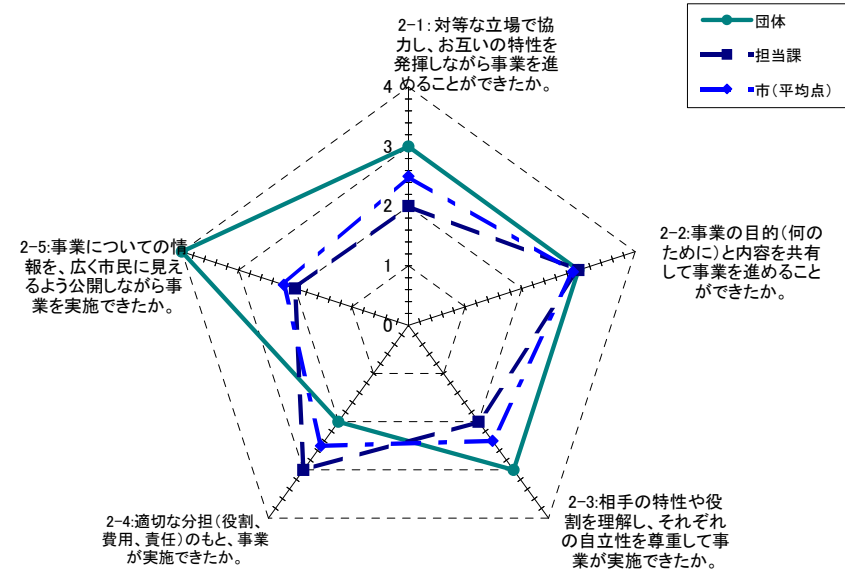
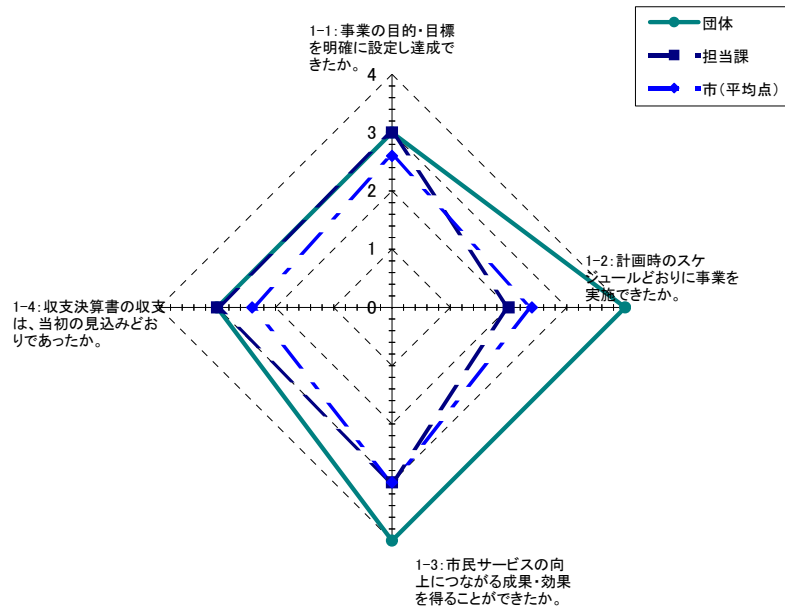
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 3  | 3   | 2.60   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 4  | 2   | 2.40   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 4  | 3   | 3.00   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 3  | 3   | 2.40   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 3  | 2   | 2.50   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 3  | 3   | 2.90   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 3  | 2   | 2.40   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 2  | 3   | 2.50   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 4  | 2   | 2.20   |



# 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名   | 防犯対策システム運営事業   |      |  | 団体／担当課  | (特非)地域魅力  |        |           |
|--|---|--|------|--|---|-----------|--------|-----------|
|  | 事業区分  | 市提案協働事業  | 事業年度 | 平成22年度～24年度                                      | 事業費   | 1,467,750 | うち市負担金 | 1,467,750 |
| 2. 事業概要                                      | 1. 防犯情報の配信と緊急事態への対応<br>期間を通じ、警察署や市、県などから提供された防犯情報やその他の安心安全情報を編集し、登録者向け配信するとともにケーブルテレビへ送出依頼を行う。特に緊急性の高いものなどについては電子会議室やtwitterなどでも配信する。また市民から投稿される防犯情報等の編集と配信、SOSメールやHELPメールの確認ができる態勢を保つ。<br>2. システムの拡大と共助の仕組みづくり<br>利用が拡大するスマートフォンなどに対応し、最新のICT技術を取り入れた地域の安全安心のための仕組みを検討、開発する。これに合わせてかけつけ協力員の拡大増強を図る。  |  |      |  |   |           |        |           |
|  |   |  |      | 団体   | 市   |           |        |           |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果   | ・警察署と連携し、市内での犯罪発生情報を逐一配信することで、市民の防犯意識の向上や、地域ごと、多発している犯罪やその手口に関する具体的な注意喚起をすることができた。<br>・Twitterやfacebookを利用することで、「防犯」や「安心・安全」という枠で情報受信をしようとする以外の市民にも情報を届けることができ、幅広い市民に対して注意を促すことができた。                           |      |  | ・市内での犯罪発生状況を逐一配信することで、市民の防犯意識の向上や、地域ごと、多発している犯罪やその手口に関する具体的な注意喚起をすることができた。<br>・市内の防犯キャンペーンや地区イベント等で、防犯対策システムをPRし、市民への認知度を上げた。<br>・防犯対策システムに関する行政視察において、システム概要、本市独自の「かけつけ協力員」や「SOSメール配信機能」等を紹介し、対外的な認知度を上げた。 |           |        |           |
|  | 定量的効果   | ・かけつけ協力員の増減<br>→2012年4月現在316人。(2011年4月時点では312人)<br>・防犯対策システムの利用者増加<br>→2012年4月現在10,217人。(2011年4月時点では10,096人)<br>・認知犯罪件数の減少<br>→平成23年1月～12月のデータ<br>藤沢市 4,288件 (対前年比 -719件 85.6%)                                |      |  | ・防犯対策システムの利用者の増加<br>→2012年4月現在10,217人 昨年4月時点より121人の増加<br>・刑法犯認知件数の減少<br>→平成23年1月～12月のデータ(県の増減率との比較)<br>神奈川県 85,659件 (対前年比 -7,710件 91.7%)<br>藤沢市 4,288件 (対前年比 -719件 85.6%)                                   |           |        |           |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)   | ① 藤沢警察署・藤沢北警察署のそれぞれの担当者が変わった後、しばらく情報が配信されないことがあった。<br>② かけつけ協力員研修会・交流会を企画したが、周知期間が短かったこともあり開催を延期した。<br>③ 前年度までに開発したスマートフォン用のシステム「あんしんアプリ」について、藤沢市のシステムとして運用できるよう検討と修正を行ったが、年度内に実運用にこぎつけられなかった。                 |      |  | ① 警察からの犯罪発生情報を登録者のみでなく、各地域ヘリアルタイムで周知(駅ナカ・スーパー等の掲示板情報)ができれば、さらなる防犯意識の啓発や防犯対策システムのPRIになると考えるが実施できていない。<br>② かけつけ協力員としての意識や活動意欲など、モチベーションの維持に対する取り組みとしての研修会の充実が求められる。  |           |        |           |
|  | 対応策   | ① 定期的に藤沢警察署・藤沢北警察署の担当者とのコミュニケーションを図り、情報共有や情報発信の課題について話し合う機会を設けるなど検討する。<br>② 平成23年度分については24年度の早い段階で開催(5月開催予定)し、平成24年度分については、余裕をもったスケジュールで周知し実施する。<br>③ 平成24年度中(6月)に運用開始を予定しており、約5ヵ月間の実験運用をふまえて1月に公式運用開始を検討している。 |      |  | ① 企業への協力の働きかけや、配信情報の提供方法や場所について検討する。<br>② かけつけ協力員への活動研修として、実働的な研修の導入や、様々な専門分野の講師に実経験を踏まえた講習を依頼するなど、研修会の充実や協力員の意識啓発の取り組みについて検討を重ねる。  |           |        |           |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | ・市内の大学の安心安全に関する取り組みと連携していく。<br>・自治体で運用する安心安全アプリの運用を開始し、市内外に向けてもアピールしていく。<br>・協働事業期間終了後の防犯対策システム運営事業のあり方について、市と検討していく。   |  |      | 防犯対策システムによる防犯啓発、配信情報の有効活用、かけつけ協力員の研修の充実について取り組む。 |   |           |        |           |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | ・防犯や犯罪情報が氾濫しているまちは如何かと感じる、無意味とは言わないが新聞記事の一行と変わらなくなってしまう。・内容も粗末担当者が変わったから発信できない、協力員の活動喚起等)、人材の仕組みは向いており分離して運営する理由が見いだせない。<br>・犯罪減少傾向は神奈川県全体の値と一緒に、当事業との因果関係は疑問。・かけつけ協力員研修会・交流会の協力員は何名程度活動しているのかが不明だった。かけつけ協力員は何名ぐらいいるのか？たまはトはそのうち何名か？研修の参加者25名は少ないのではないのか？かけつけ協力員の確認等毎年何かした方がよいのでは？<br>・安心して暮らせる街は私たちの理想です。未然に被害を防ぐといっても個人ではたいしたことはできません。地域で日常の防犯意識を高めるといった活動は有効です。<br>・協働事業として、市または市民活動団体が単独で行うよりも、より成果があがったところは何か整理しておくとうと良いと思う。情報発信を手がかりに、地域ボランティアのネットワーク化や支援ができるようなシステムとなれば良いと思う。アプリ開発はそもそも本事業の内容か？<br>・協働の良さが見えない。この事業の目的をもう一度確認して活かしてほしい。・広報の問題もあると思うが、内容に魅力が無ければ利用者の理解は得られない。<br>・システムにかける予算に対し、利用率が低いと思う。日頃の市民活動の中での防犯バトロール(協議会)、小学校通学みまもり隊など関連する団体の事業との一体感が無いと思う。団体チェックシート(一)評価。それだけ課題があるということだと思います。<br>・防犯情報の配信と緊急事態への対応にはもっと工夫が必要かと思われる。「あんしんアプリ」についても利用する(できる)市民がどれほどいるのか |  |      |  |   |           |        |           |

|     |              |
|-----|--------------|
| 事業名 | 防犯対策システム運営事業 |
| 団体名 | (特非)地域魅力     |
| 担当課 | 市民自治推進課      |

【採点基準】

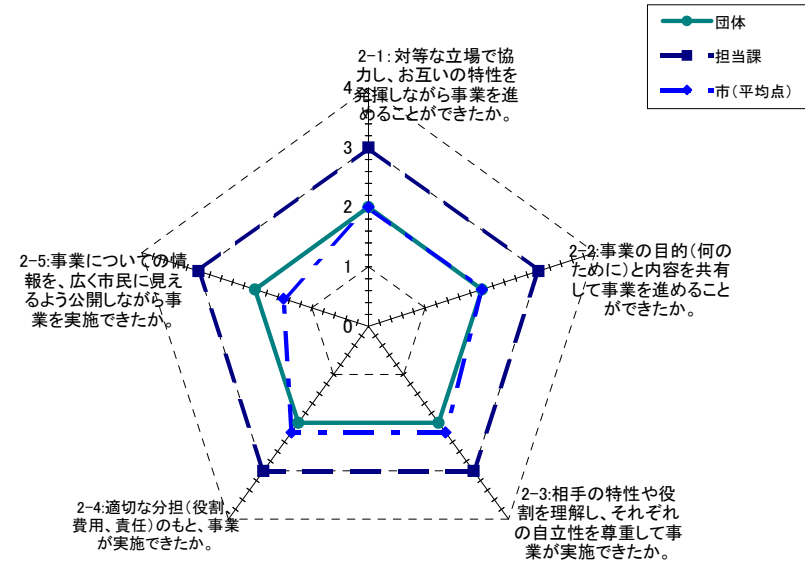
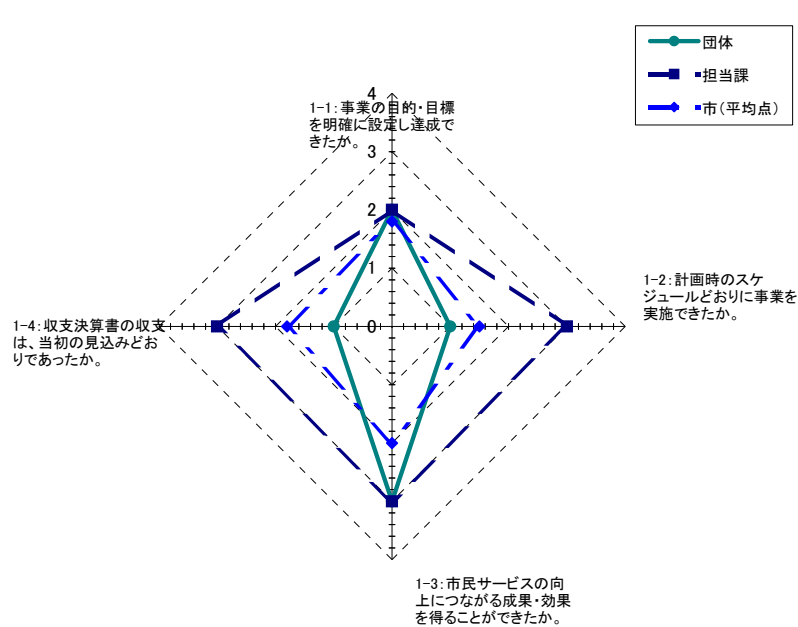
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 2  | 2   | 1.80   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 1  | 3   | 1.50   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.00   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 1  | 3   | 1.80   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 2  | 3   | 2.00   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 2  | 3   | 2.00   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 2  | 3   | 2.20   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 2  | 3   | 2.20   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 2  | 3   | 1.50   |





# 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                   | 事業名   | 緑地(里地里山)保全活動事業  |      |             | 団体/担当課   | (特非)藤沢グリーンスタッフの会 |        |  |
|--|---|---|------|-------------|--|------------------|--------|--|
|  | 事業区分  | 市提案協働事業   | 事業年度 | 平成22年度～24年度 | 事業費  | 460,000          | うち市負担金 | 460,000  |
| 2. 事業概要                                    | <p>①緑地保全事業は、新緑地10箇所を加えた市指定緑地20箇所に関し、事前に、市、各行政センターと下見をし、4地区運営体制で各拠点の状況に合わせた固有の活動を実施し、特に、管理モデル緑地では住民アンケート実施など住民参加への試行を展開している。</p> <p>②里山保全ボランティアリーダー養成講座事業では、従来の養成講座に加えて、ニーズに合わせて現会員向けのステップアップ講座開設。</p> <p>③環境調査事業は、指定緑地の実体を把握すると共に、稀少な生物の発見から保存へ活動へと活用している。</p> <p>④普及啓発事業は、各種イベントを通じた樹木・竹等間伐材の利用に関する啓発活動と併せて東日本大地震への支援金活動へも貢献。</p> <p>⑤市有の西俣野自主管理緑地では、里山保全の固有管理法研修の他、近隣の境川西岸地域の竹林整備支援活動を開始している。</p> <p>⑥市民活動支援活動では、石川丸山谷戸の保全活動の支援、他支援依頼が多く、公園愛護会活動の支援、駒寄団地自治会の植栽整備、休耕田を整備利用する菖蒲沢の菖蒲育成支援等を実施。</p>  |   |      |             |  |                  |        |  |
| <b>団体</b>                                  |   |   |      | <b>市</b>    |  |                  |        |  |
| 3. 事業を行っての成果・効果                            | 定性的効果   | <p>会事業の拡大に伴い、会の各種協働事業活動への会員の延参加者は累計1,300名、年平均参加頻度(回数/人)についても10回を超え、会員の活動意欲の向上がみられる。また、会活動の累計回数も約130回で、この運営には、リーダー、サブリーダーが必要で、会事業を運営する役を担う会員が増加しており、ボランティアリーダー養成の目的が実を結びつつある。会員の市民活動での各種技術及び運営に関するノウハウの修得もレベルアップしており今後の市民活動での活躍が期待できる。</p> <p>保全事業では、事前に、市を通して各センター・公民館及び住民への連絡を開始したので、住民の関心の高い地域では作業内容に住民の意向が取り入れられ、その意向を組み入れた活動が進展しつつあり、市民意識の醸成にも着実に進展している。また、大庭持瀬等の一部を残して、他の緑地は放置された薄暗い状態から見通しのきく健康的で安全な緑地に変わりつつある。</p> <p>その他の事業活動でも、FGSの活動が質・量の両面から高く評価され、一般市民及び市民団体等からも継続的な活動参加及び支援が強く期待されており、かつ、新たな支援活動依頼案件も多く事業を拡大する運営が必要になって来ている。また、事前環境調査で確認された稀少植物を保護する保全活動も始まり、ヒートアップ管理活動でも、藤沢では珍しいカエル等の生息を確認し保護活動への取組みを始めている。すなわち、FGSは活動の最大の特徴である緑地保全の知識と活動を両立させる重要な活動を始めている。</p>   |      |             | <p>市有緑地等は、適度な保全活動を行っていくことが自然保護・環境保全・防災防犯等様々な面から理想であるが、行政が行う場合人員・財政状況等の制約があることから、実態としては隣地境界沿いの草刈りや越境木の処理等必要最小限の作業しか行うことが出来ず緑地内部の荒廃が多々見られ市に対する苦情も多かった。しかし本協働モデル事業での活動を環めた結果、市有緑地は本来あるべき里山の姿を取り戻しつつあり、同時に活動に携わった市民の郷土愛や地域コミュニティの醸成、環境意識の啓発等様々な効果が現れている。</p>   |                  |        |  |
|  | 定量的効果   | <p>協働事業全体の活動への年間累計参加者は1,300名を超え、準備活動を省いた活動の参加者はこの10%以上であり、これら熱意ある多数の会員により各種活動が予定通り実施され成果が得られたと解釈される。緑地保全活動では、参加人員は昨年比30%増の820名で実施し、指定緑地の保全作業指定面積に対して実際に整備した面積比率は100%以上を整備でき、台風後の危険な倒木処理も優先して実施する等、見違えるような景観の緑地となりつつある。養成講座事業は受講生25名に対し24名が所定講座を修了し、全員が各活動のリーダーとして研修を開始している。新たに依頼される支援事業などで要求されているニーズに応えるべく所要実践技術を修得するステップアップ講座を開設。200名以上が受講し支援要求の期待に応えるように整備が進んでいる。環境調査事業では、作業前後の調査を継続実施し、藤沢では稀少な生物を確認し保護活動を進め、市の環境実態調査にも有効である。普及啓発事業では、市民講座回数は10回、イベントに関しては11回で、市民参加者が2,000名以上と市民へ直接に働きかける機会が大幅に増加し、市民意識醸成に取り組んでいる。支援事業関係では、長年に亘る協働事業活動の成果が現れ、各種団体及び市民からFGSからの支援の期待が寄せられ、会外部への会としての支援回数として10回、延べ参加会員約100名と大幅に増えている。また、市有地の西俣野管理緑地でも、里山の自主管理の研修以外に、実績が評価され、近隣住民保有の境川周辺の多数の竹林の整備依頼が進展している。外部市民活動団体の石川丸山谷戸においては、会員26名が参加し主要な役割を果たしており、復旧田や「ぼたろ」保存活動等特筆すべき成果を上げている。次年度に、新規に支援を依頼されつつある案件が多数あり、会として保有能力を動員しつつ対応することが必要とされている。</p> |      |             | <p>通常、市が保有緑地等の維持管理作業を行う際の単価目安は以下のとおりである。</p> <p>枝下ろし・間伐等: @15,400円/日・人(造園工単価)</p> <p>以上の単価から概算費用を算出すると、<br/>枝下ろし・間伐等: 15,400円×682人(作業実績×1/2(半日))=5,251,400円<br/>5,251,400×1.48(業者経費平均)7,772,072円となる。</p> <p>協働事業費(4,600,000円)との単純な費用比較で59.2%となり維持管理費用の大きな節減となっている。また、協働事業作業では標準的な業務委託にはない部分まで手を入れており、さらに協定上予定されている以上の多種多様な作業・巡回等を積極的に行っており、実質の効果は数字以上であると思われる。</p> |                  |        |  |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                     | 反省点(課題)   | <p>① 緑地保全の市民意識の醸成を目的とした緑地保全事業における各緑地の活動については、各緑地の現状(含む環境等)を勘案して、近隣住民との係わりを一層進展させるようモデル管理緑地等で先行して各種施策を実施しているが、市民意識の醸成には時間がかかることを前提に、諦めることなく、市・行政センター等と連携しながら、各拠点で、平成23年度での試行結果を利用すると共に、一層の知恵と工夫が必要である。</p> <p>② その他、各事業においても、緑地保全の推進およびこれに対する市民意識の醸成にかなうような方向へと一層リーダーシップを取ってより積極的に取り組むことが必要である。</p>  |      |             | <p>緑地管理への地域住民の積極的関心が不十分である。</p>  |                  |        |  |
|  | 対応策   | <p>① 緑地保全事業における各緑地の活動についての近隣住民との係わりをより進展させるためには、各緑地の現状(含む環境等)を勘案して、先ず、22年度で試行し始めた。事前に、市、各市民センター・公民館を通して住民へ連絡する取組みなどにより、23年度において得られた住民とのかかわりを一層進展させるように具体的な施策、例えば、住民の作業見学を試行するなど、各拠点ごとに、その実施過程で発生する課題を明確化し、その解決を図りながら、住民参加への道筋を具体的に示すようにしたい。また、拠点ごとの、緑地の将来像(ビジョン)も活動する者の視点で新たに提示したい。</p> <p>その他事業活動として養成講座事業では、保全の知識・技術修得に加えて、活動のリーダースキルの習得を図るがキリウムを明確化し、環境調査事業では結果の保全事業への活用と人材育成を図れるよう取り組み、普及啓発事業では市民と関わる機会を増やしていくこと、支援事業では市民及び各市民団体との係わりを積極的に「行う」等、FGSの保有する経験・技術(含む人材)を生かす育成してことが必要である。</p>  |      |             | <p>一部緑地で試行してきたノウハウをもとに各市民センター・公民館と連携し地域住民や自治会との連携を強化していく。保全技術の向上とともに地域住民へ明るく楽しい緑地のイメージを持ってもらえるようフォローアップ研修等を活用していく</p>  |                  |        |  |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施して、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>藤沢市の緑地保全に関する協働事業を推進するに際して、行政と住民との間で、事業推進する団体として、その活動で発生する個々の課題への対応は初めての経験であるので、工夫しながら解決し、NPO組織としての存在価値を発揮できるよう取り組みたいと考えています。そのためにも、今まで蓄積してきた経験・技術だけでは不足で、これらを活用するための「リーダーシップ性を含むノウハウ」および「個人あるいは団体間の調整力」を、本協働事業を通じて経験し蓄積し、知識と実践力を両立させた組織活動として発揮できるように運営して行きたいと考えています。</p>   |   |      |             |  |                  |        | <p>本協働事業も平成19年度から平成21年度までの3年間に引き続き平成22年度からの2年間で大きな成果を上げ、さらに内容を充実することが出来た。これまでの活動で得られた様々なノウハウをもとに、より充実した地域へ密着した活動へ発展していく。</p> |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                     | <p>・私ごとですが、藤沢在住30年、藤沢に三大谷戸と言われる谷戸があること、丸山谷戸でぼたろが見れる事を聞きました。そして、そんな環境を守って活動している団体を知りました。</p> <p>・多くの課題もありますが、是非とも活動を継続させる仕組みを構築して頂きたい。・市有緑地の20カ所の選定方法は？ボランティアリーダーの拡大、市民活動員の拡大の仕方は？</p> <p>・活動計画通りの活動が進み、住民の関心が高まっていることにより成果が挙げられていると思います。ボランティアリーダー要請講座についてステップアップ講座を設けたことはとても良いことだと思います。</p> <p>・市民活動団体の努力により、多岐にわたる事業で成果をあげている。特に市民参加が広がることが評価できる。市民活動団体が行うことの意義であらう。“モデル”の地域への普及について、今後考えてほしい。市民活動団体の全体に求める本事業の割合が高すぎないか懸念がある。</p> <p>・理解しやすい報告と事業別収支決算書はとても良かったと思います。そして今後も何に取り組むべきかの課題も明確になっているのを感じることができました。</p> <p>・大変効果のある事業だと思います。ネットワークの良さが重要だと改めて感じました。・必要とされる事業であると認めますが、NPO活動が市の下請けになっているのではないかと。協働事業ではなく、委託事業にすべきです。</p> |   |      |             |  |                  |        |  |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 事業名 | 緑地(里地里山)保全活動事業   |
| 団体名 | (特非)藤沢グリーンスタッフの会 |
| 担当課 | まちづくりみどり推進課      |

【採点基準】

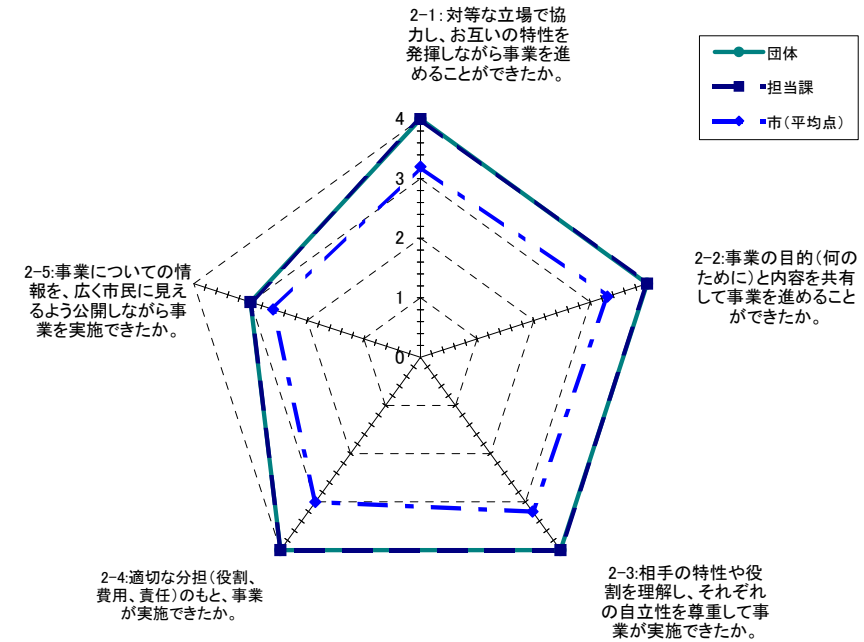
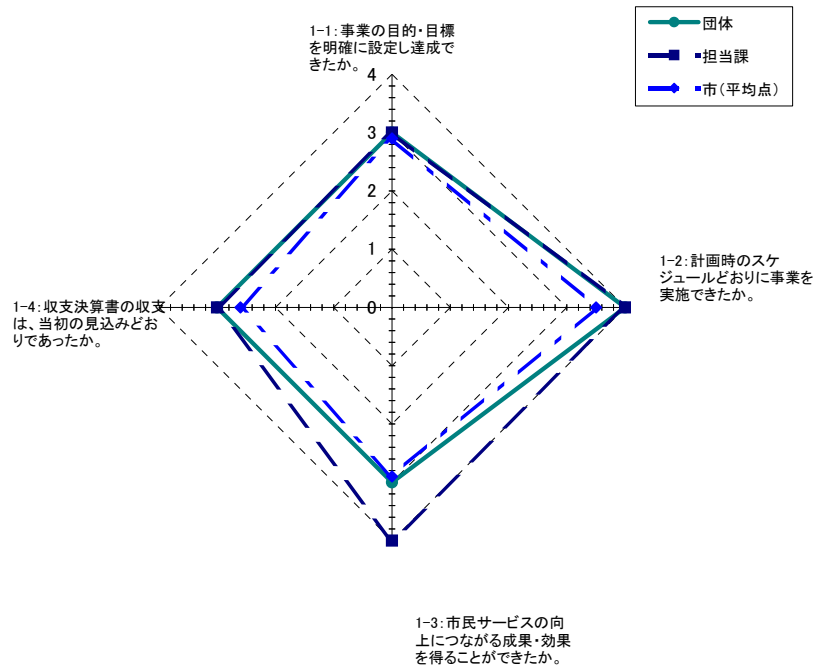
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 3  | 3   | 2.90   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 4  | 4   | 3.50   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 4   | 2.90   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 3  | 3   | 2.60   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 4  | 4   | 3.20   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 4  | 4   | 3.30   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 4  | 4   | 3.20   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 4  | 4   | 3.00   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 3  | 3   | 2.60   |





## 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名   | パソコン出前病院パート2事業  |      |        | 団体／担当課 | (特非)湘南ふじさわシニアネット |        |   |  |
|--|---|---|------|--------|--------|------------------|--------|---|--|
|  | 事業区分  | 市民活動団体提案協働事業  | 事業年度 | 平成23年度 | 事業費    | 870,000          | うち市負担金 | 870,000   |  |
| 2. 事業概要                                      | <p>ITの活用で安全で安心して生活できる地域社会をつくることが求められている。市民にとってパソコンでのインターネットの活用が益々重要であるが、パソコンの使い方がわからない、ネット利用の不安等の問題をかかえている市民がアンケート等の結果から多いのが現状である。</p> <p>本事業は、そのような問題の解決のためにパソコンの利用についての相談や診断を実施する「パソコン出前病院」を公民館13カ所で開催する。開催時には、実際にトラブルをかかえているパソコンを持参してもらって、診断を行い、診断結果の説明・対応の指導・軽微な整備作業の実施を行う。</p> <p>また、「パソコン出前病院」を、インターネットを安全快適に活用する方法について講義を行う「インターネット安全教室」や、パソコンの操作等を講師に相談ができる「出張Let'sふじさわ」と同時開催とすることにより、総合的なパソコン等に関する相談の場を整備し、利用者の利便性と事業効果の相乗的な向上を図る。</p>   |   |      |        |        |                  |        |   |  |
| 団体   |   |   |      | 市      |        |                  |        |   |  |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果   | <p>利用者の相談やパソコンの診断に十分な時間をかけて対応し、軽微な不具合はその場で解決するなど、利用者の不安解消、課題解決に役立った。</p> <p>特に、セキュリティ対策については、持ち込まれたパソコンのセキュリティ対策の診断を行い、ウイルス対策ソフトの導入、指導を実施することにより、インターネットを安心して使える環境の整備を促進した。</p> <p>下記のとおり、利用者アンケートにおいても、全ての方に「大変満足」「満足」と評価していただいた。</p> <p>また、本NPOの診断担当者のスキルアップを図ることができ、今後の事業につながるものとなった。</p>  |      |        |        |                  |        | <p>藤沢市では、今までも「インターネット安全教室」や「市民IT相談コーナー“Let'sふじさわ”」の運営を通じて、市民がインターネットやパソコンを快適に安心して利用するための支援を行ってきたが、本事業を従前の事業と平行して同会場で実施することにより、パソコン診断等従前の事業だけでは不十分であった部分を補うことができるとともに、パソコン等に関する総合的な相談の場を実現することができた。</p> <p>さらに、利用者の身近な場所である市民センター・公民館を会場とすることで、利用者の利便性が向上した。</p>       |  |
|  | 定量的効果   | <p>13箇所の会場で本事業利用者の合計は74名で、パソコン診断件数は80件であった。</p>   |      |        |        |                  |        | <p>本事業の利用者アンケートでは、満足度が100%であり、同時に開催した「インターネット安全教室」の利用者アンケートにおいても、「大役に立った」「役に立った」という意見が約83%という高い評価をいただいております。市民のインターネット等に関する不安や問題の解決に効果があった。</p>   |  |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)   | <p>事業の周知については、広報紙、各開催場所等へのポスター掲示、チラシ配布といった、様々な方法で周知を行った。しかし、アンケート集計結果では71%の方が市の広報紙で知ったと回答しており、広報紙以外での周知方法の改善が必要である。</p> <p>当日本事業に持ち込まれたパソコンのセキュリティ上の問題点で多く見られたのは、各WindowsOSが最新版にアップデートされていない、セキュリティ対策ソフトがアップデートされていない、期限切れ等であった。これは、利用者のセキュリティ対策に関する知識が不足しているためであり、平行開催している「インターネット安全教室」への参加が有効だったが、「パソコン出前病院」側での相談・診断に時間がかかり、「インターネット安全教室」に参加することができなかったなど、各事業間の連携に課題があった。</p> |      |        |        |                  |        | <p>本事業と「インターネット安全教室」や「市民IT相談コーナー“Let'sふじさわ”」を同会場で平行して実施することによる利用者増等の相乗効果については、事業形態の相違(座学と随時対面など)により十分な効果は現れなかった。</p> <p>また、利用者の身近な場所である市民センター・公民館を会場としたが、各会場年に一回ずつの開催であったので、その時に参加ができなかった場合には、地元ではなく別会場に行かなくてはならず、周知方法の課題とあわせて、必要な時に必要な支援が受けられるような事業内容を検討する必要がある。</p> |  |
|  | 対応策   | <p>周知方法の改善については、地域の市民センター・公民館で実施する特徴を活かして、今まで行っていない閲覧版を利用した周知方法も検討する。閲覧版は、その地域の開催時期に合わせてピンポイントで周知が可能となるため非常に有効な方法である。</p> <p>パソコンの診断からセキュリティ対策に関する知識の習得、具体的なセキュリティ対策の実施までを本事業の中で完結するように、事業の内容等を見直す。</p>   |      |        |        |                  |        | <p>閲覧版や掲示版の利用などを利用して、開催会場の周辺等参加しやすい地域を対象に、きめ細かな周知を行う。</p> <p>また、常時開設している「Let'sふじさわ」や本NPOの実施する他の事業とも連携を図り、本事業利用者のフォロー等を行える体制を整える。</p>  |  |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>市民にとってパソコンでのインターネットの活用が益々重要となり、また高齢層のパソコンの利用も大幅に増加している。今回の事業においても、アンケート集計からわかるように、60才以上の方が大変多く、みなさんパソコンのトラブルで困っている。今回の協働事業を実施してみて、このような事業が大変望まれていることの確信を得た。同様の事業を継続して提案していきたい。</p> <p>インターネットセキュリティの認知度はまだ十分ではない。認知はあるが、具体的にどうすれば良いか全くわからない方が多くいる。セキュリティソフトの警告や、注意ダイアログの内容が全く理解できない様子で放置する方が多いという実態も把握できたので、そうしたサポートも必要であると思われる。</p>   |   |      |        |        |                  |        |   |  |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ1500枚、投入員数103名⇒利用件数80件? ・ICTのハード/ソフト変化が目まぐるしく、潜在的需要は確実に増えていると思う。できれば、開催頻度を増やしたい。</li> <li>・全体的成果と費用対効果として悪い。事業予算87万円に対して利用者74人。・予算に対して利用者が少なく、業者との不公平を感じる。自己満足であれば必要ない。活動目標が低すぎる。</li> <li>・「パソコン出前病院」は困っている方の手助けとなり、また高い満足度をいただいているとのこと。1相談者に対して2時間ほどかけている点はあるが、スマートフォン・タブレットPC利用者は急増しています、今後の対応期待しています。</li> <li>・市の協働事業として採択されたことで、団体は事業をスムーズに実施できたと思う。市が挙げた課題にもあるように事業の目的を鑑み、市の施策として手法が妥当なのか検討する必要がある。</li> <li>・今の社会の課題に取り組む活動です。シニアの皆さまが市内で活躍されることは、市の元氣、活性にもつながる一石二鳥の活動ではないかと思えます。</li> <li>・高齢者に対する安心・安全はネットワーク社会において重要です。働いていない人にとってのセキュリティ情報を得る機会は限られています。貴重な事業だと思います。発展した活動を期待します。</li> <li>・市がIT事業を進めていることは理解できる。この事業が効果的というなら、単年度で止めるべきではない! ずっと継続すべきと考える。シニアネット単独でも事業化できるのではないかと。</li> </ul> |   |      |        |        |                  |        |   |  |

|     |                  |
|-----|------------------|
| 事業名 | パソコン出前病院パート2事業   |
| 団体名 | (特非)湘南ふじさわシニアネット |
| 担当課 | IT推進課            |

【採点基準】

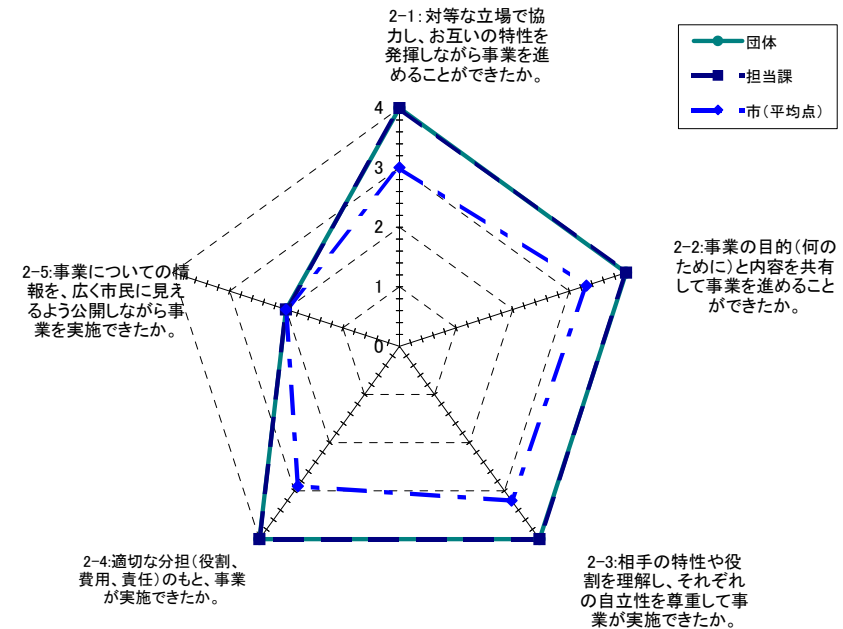
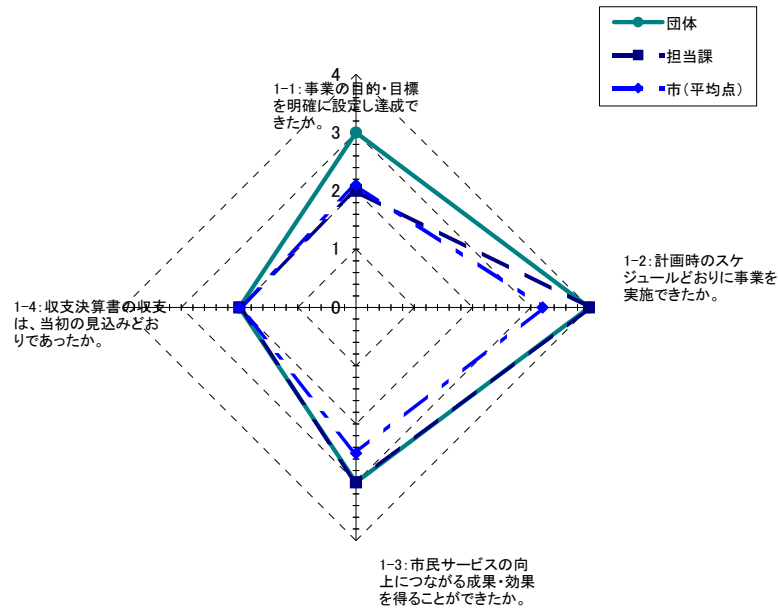
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 3  | 2   | 2.10   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 4  | 4   | 3.20   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.50   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 2  | 2   | 2.00   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 4  | 4   | 3.00   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 4  | 4   | 3.30   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 4  | 4   | 3.20   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 4  | 4   | 2.90   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 2  | 2   | 2.00   |



## 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名   | ジュニアライフセービング教室事業   |      |  | 団体/担当課   | (特非)西浜サーフライブセービングクラブ |        |           |
|--|---|--|------|--|--|----------------------|--------|-----------|
|  | 事業区分  | 市民活動団体提案協働事業   | 事業年度 | 平成23年度   | 事業費  | 1,684,000            | うち市負担金 | 1,684,000 |
| 2. 事業概要                                      | <p>藤沢市は全国有数の海水浴場を有し、年間400万人を超える海水浴客が訪れている。しかし2007年には2名の中学生が溺死する事故が発生するなど、子供を含め多くの水難事故が発生している。また海に近接しているという立地にありながら、小中学生が海について学ぶ機会が非常に少ない状況にある。</p> <p>そこで、小中学生を対象とした、海の知識を学ぶプログラムを実施し、水難事故を減少させることを目的にジュニアライフセービング教室を開催した。内容は、希望する小中学校に基本的な海の知識及び安全管理に関する講演又はプールでの講習を18回開催した。さらに現場の教職員による海など水辺の安全教育に関する調査研究を行った。</p>  |  |      |  |  |                      |        |           |
| 団体   |   |  |      | 市  |  |                      |        |           |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会を行うことによって、小中学生が海など水辺で安全に遊ぶための注意事項を伝えることができ、水難事故防止に対して寄与できた。</li> <li>・希望する学校にはプールでの実習を行った。その結果、リップカレント(離岸流)からの脱出方法や身近な持ち物での浮力確保方法などの体験学習を行い、より具体的な水難事故防止に関する知識・技術を伝えることができた。</li> <li>・藤沢市の海に関する知識を学ぶことによって、海という藤沢市の誇るべき資産に対して愛着を持ち、さらに小中学生の海洋環境保全意識が高めることに寄与できた。</li> <li>・パンフレット配布を行うことによって、小中学生のみならず保護者の方々など多くの藤沢市民に対して、海に対する知識や水辺で安全に遊ぶための注意事項を喚起するができ、水難事故防止に対して寄与できた。</li> <li>・調査研究を行い報告書にまとめ、さらに各小中学校へ配布することによって、具体的な水辺の安全教育に関する授業案の提案を行うことができた。</li> </ul> |      |  | <p>ライフセーバーから直接、海の安全に関する話を聞くことができた。</p> <p>海の安全に関する知識を得ることができた。</p> <p>海の安全に関する意識を高めることができた。</p>  |                      |        |           |
|  | 定量的効果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生約3,300人に講演を通じて直接、海に対する知識や安全に遊ぶための技術を伝えることが出来た。</li> <li>・講演や打ち合わせを通じて、参加して頂いた教職員のの方々や一部保護者の方にも、海に対する知識や安全に遊ぶための技術を伝えることが出来た。</li> <li>・ポスターを配布・掲示することによって、藤沢市の全ての小学生(約2.2万人)、中学生(約1万人)に対して、基本的な海の知識や安全に遊ぶための注意点を喚起することが出来た。</li> <li>・今年度藤沢市内において、海水浴期間中(7-8月)の小中学生の水難事故はゼロであった。</li> <li>・調査研究報告書を市内55校の小中学校へ配布を行った。</li> </ul>   |      |  | <p>作成したポスターから、市内全児童生徒が海の安全に関する知識を得ることができた。</p> <p>作成した調査研究報告書は、教員が海の安全に関する授業を行う際の今後の参考となる。</p>   |                      |        |           |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)   | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義形式、プールでの実習形式を選択可能とした。しかしプール実習を予定していた学校でも悪天候により講義形式に変更する場面もあった。</li> <li>② 今年度は、講演を行った学校の生徒のみにパンフレットを配布し、それ以外はポスター掲示に留めた。しかしポスターが十分見られていたかは、内容の説明など十分なフォローを行うことが出来なかった。</li> <li>③ 講師の都合により特定の曜日での対応できなかった。</li> <li>④ 水辺の安全教育の調査研究を実施し、報告書にまとめたが、報告書配布にとどまり現場の教職員の皆様に直接伝える機会を得られなかった。</li> </ol>  |      |  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程内での実施が難しい場合がある。</li> <li>2. プールでの実施希望校は当日の天気次第で、内容を体育館での講義にせざるを得ない。</li> <li>3. 小・中学校からの開催希望日が6月・7月に集中し、団体側の繁忙日と重なってしまう。</li> </ol>  |                      |        |           |
|  | 対応策   | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義形式、プールでの実習形式を選択可能としたのは好評であった。悪天候による変更への対応は困難な部分もあるが、可能であれば予備日も設けたい。</li> <li>② ポスター掲示だけでなく、その内容を簡単に教職員が説明できるような参考資料を作成する。</li> <li>③ クラブ側で対応できる講師を増やし、より希望にこたえられるようにしたい。</li> <li>④ 報告書内容を踏まえ、教職員向けの講演会などを実施する。</li> </ol>  |      |  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程外での実施も可能にする。</li> <li>2. 天気についてはいかんともしがた。どうしてもプールでの実施を希望する場合は第2希望日を設定し、学校と団体で打ち合わせる。</li> <li>3. 学校でプールを使用できる日は限られている。また、海辺の安全の指導は夏季休業前に行いたい。ゆえに団体の繁忙期との重なりは避けられない。可能であれば団体で講師の増加を望みたい。</li> </ol> |                      |        |           |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>我々の目標は、2007年の引地川の事故を受けて、2度とこのような事故が起きないように、子供達に海に対する知識や水辺で安全に遊ぶための注意事項を伝えることである。西浜LSOでは既に自主事業として、小中学生を対象とした講演会や海でのプログラムを実施している。今回、藤沢市と協働することによって、より多くの小中学生に対し海に対する知識や水辺で安全に遊ぶための注意事項を伝えることが出来た。今後も継続的に実施し、水難事故防止に大きく貢献したいと強く考えている。より具体的に伝えるには、実際に海でのプログラムを実施することが効果的である。学校でのプログラムとして行う場合、安全上の問題など様々な課題をクリアする必要があるが、今後は是非、学校内だけのプログラムだけではなく、海でのプログラムの実施も検討していきたい。児童生徒のみではなく、継続的な海の安全教育が実施されるために教職員に対するプログラムを行うことも視野に入れている。今後、本プログラムに参加した生徒が、海に興味を持ち、一人でも地元の家を守るライフセーバーが育てば幸いである。全国有数の海水浴場を有する藤沢市の海岸安全管理を担う人材が地元から育ち続けることは、安全な海水浴場というイメージを発信でき、藤沢市全体のイメージアップに繋がると考える。そのために西浜LSOとして、本プログラムのような教育・啓蒙活動以外にも、海水浴場でのパトロール、ビーチクリーンの実施など様々な貢献をしていきたい。3/11に発生した東日本大震災における津波被害は、海で活動する我々にとっても大きな衝撃であった。藤沢でも津波被害が想定されている。次年度以降は津波からの避難に関する内容も盛り込むことを検討していきたい。3年間継続して実施、一定のプログラムが完成させることができた。今後藤沢市内だけでなく、神奈川県内及び全国にも普及していきたい。</p> |  |      | <p>海の安全について学ぶことは、海に面する藤沢市に住む児童生徒にとって非常に有効であると考えられる。</p> <p>協働事業3周年を迎え、学校側がジュニアライフセービング教室に求める内容もより明確になってきた。また、東日本大震災以降、沿岸部の学校を中心に津波対策を求める声も大きい。学校の要望に対しても、可能な範囲内で聞いていけたらよいと考える。</p> <p>ジュニアライフセービング教室の実施を求める学校は、市内南部に多い。今後もよりニーズの高い学校での開催を優先させたい。</p> |  |                      |        |           |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支出で人件費の割合が多い。全小中学校に拡げてほしい。・市の安全対策として、必要な活動と思われる。今後も行政の活動として行うべきではないか。</li> <li>・プールの授業が少ない中で海を学ぶプログラムを設けたことは“安全”という観点で有効です。水難事故防止のためにもまずは“知る”ことが大事だと思います。海辺の学校のみならず、活動を広げてください。</li> <li>・充実した事業が実施されたことが伺える。今年度の事業に過去の経験が活かされるということで活動の充実を期待したい。</li> <li>・特別なライセンスを活かしていただいた活動です。このような専門性をフルに協働分野で利用すべきだと思います。</li> <li>・非常に意味のある事業に予算額以上の意味があると考えます。</li> <li>・年々実績が上がり、大変嬉しく思います。団体と市との連携が進んだ良い事業と考えています。藤沢の小中学生の命を守る活動として、継続して取り組むことを期待します。</li> </ul>   |  |      |  |  |                      |        |           |

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 事業名 | ジュニアライフセービング教室事業    |
| 団体名 | (特非)西浜サーフライセービングクラブ |
| 担当課 | 教育指導課               |

【採点基準】

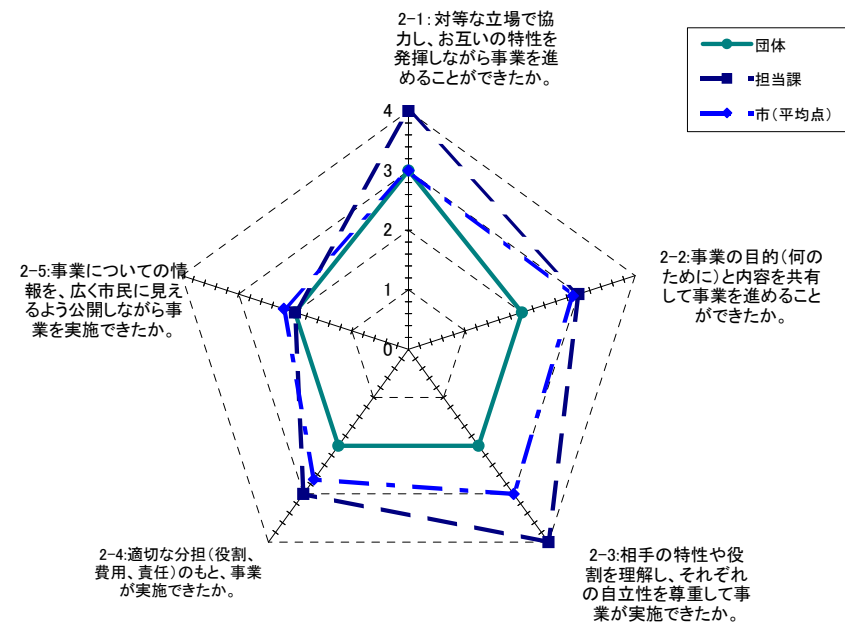
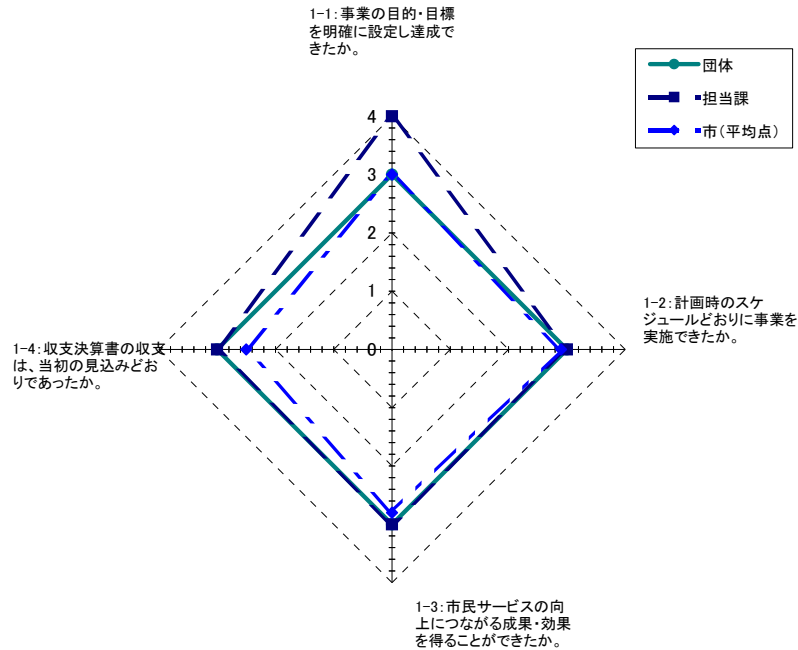
|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 3  | 4   | 3.00   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 3  | 3   | 2.90   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.80   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 3  | 3   | 2.50   |

2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 3  | 4   | 3.00   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 2  | 3   | 2.90   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 2  | 4   | 3.00   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 2  | 3   | 2.70   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 2  | 2   | 2.20   |





# 平成23年度実施協働事業の事業結果及び振り返り(気づきの共有から改善へ)

| 1. 実施事業等                                     | 事業名   | 藤沢の「食」によるシティプロモーション発展事業  |      |        | 団体/担当課  | (特非)地域魅力  |        |           |  |
|--|---|--|------|--------|---|-----------|--------|-----------|--|
|  | 事業区分  | 市民活動団体提案協働事業   | 事業年度 | 平成23年度 | 事業費   | 3,187,878 | うち市負担金 | 1,500,000 |  |
| 2. 事業概要                                      | <p>地域魅力は、藤沢市の魅力を「食」という媒体を通じて強くアピールし、市内外に多数の藤沢ファンを誕生させることを目的として、調査研究や試作に基づいたシティプロモーションを実践してきた。協働事業としての実施を想定する最終年度では、藤沢炒麺を様々なバリエーションで提供することを検討、実施する。引き続き「藤沢炒麺」を市内に根づかせるとともに市外に対しても広くアピールし、観光の目玉として打ち出すことを目的とする。さらに、「藤沢炒麺」をきっかけに藤沢の「食」に興味関心を抱いた人々に対して、他の食メニューへの誘引をも図れるよう、地域のいろいろな団体と連携しながら総合的かつ発展的なシティプロモーションを図る。</p>  |  |      |        |   |           |        |           |  |
| 団体   |   |  |      |        | 市   |           |        |           |  |
| 3. 事業を行っての成果・効果                              | 定性的効果   | <p>① 藤沢炒麺の販売を通じて、市内で生産される食材のPRができた。藤沢炒麺提供時や講演の際には、特に以下の点を繰り返しアピールした。<br/>                     ・「さがみ地粉の会」や「葛原地粉を作る会」の活動と、藤沢産小麦の存在。<br/>                     ・「やまゆりパーク」の魅力、藤沢が県下唯一の豚肉の生産地であること。<br/>                     ・市内各地で多品目にわたる野菜の生産が行われていること。<br/>                     ② 市内を中心とした加工業者(製粉業・製麺業)に業務を発注することができた。<br/>                     ③ 市内の飲食店に、地元藤沢を意識したメニューを提供することができた。<br/>                     ④ 藤沢炒麺と他の食(パン)をコラボレーションさせたメニューを誕生させたことで、より幅が広がった。<br/>                     ⑤ 生産者と加工業者や消費者をつなげることができた。<br/>                     ⑥ 多くのメディアで取り上げられ、藤沢炒麺をきっかけとして藤沢の地産地消への取り組みや藤沢の地域の魅力をアピールすることができた。<br/>                     ⑦ 二年連続でFOOD ACTION NIPPONアワード2011 プロダクト部門に入賞し、外部からの客観的な評価で良いアピールポイントを付与することができた。(公式ウェブサイト、カタログで紹介)</p> |      |        | <p>市施設へのチラシ配置及び市ホームページ等の公式情報メディアにて多くの情報を発信したことで、市内外に広くシティプロモーションが図られた。また、市の持つ情報を活用し、コミュニティビジネス事業者等との交流も頻繁に行われた</p>                  |           |        |           |  |
|  | 定量的効果   | <p>① 藤沢炒麺または関連商品の取り扱い店舗(本事業により発生したもの)<br/>                     藤沢炒麺提供店舗…市内4店舗(用田・御所見・亀井野・辻堂) 季節限定提供店舗…市内1店舗(鶴沼海岸・海の家)<br/>                     藤沢炒麺パン提供店舗…市内外2店舗(石川・横浜市泉区) 地粉麺販売箇所…1店舗(亀井野・わいわい市藤沢店) * 既存の乾麺は除く<br/>                     ② 出店したイベント・催事等の数…24件<br/>                     市内…19件25日間 市外…5件12日間(うち県外2件8日間:山梨県甲府市・宮城県石巻市) 述べ日数…37日間<br/>                     ③ 主なメディア掲載<br/>                     ・横浜ウォーカー(2回) ・湘南鎌倉ウォーカー(1回) ・地域情報誌「フジマニ」(イベント告知を含め複数回)<br/>                     ・JR東日本パンフレット「小さな旅」 ・JAさがみ 広報誌 ・JAさがみ 新聞折り込み紙面<br/>                     (以下、年度終了後)<br/>                     ・TVKかながわ旬菜ナビ 4月8日、9日放映 ・朝日新聞関東版 4月20日付</p>  |      |        | <p>(参考)<br/>                     湘南藤沢ご当地グルメマップ 掲載 発行部数 10,000部<br/>                     ご当地グルメページアクセス数(江の島ふじさわポータルサイト内) 15,505件</p> |           |        |           |  |
| 4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策                       | 反省点(課題)   | <p>① 取り扱い店舗の拡大が難しい。興味関心を持ってくれる店舗は自然発生的にも出るが、既存の麺のバリエーション(うどん乾麺、中華風蒸し麺)のみではメニューに応用しにくいところがあり、導入に至らないケースが複数あった。また、店舗拡大の障壁として、自店メニューとして取り入れた場合のメリットなどがわかりにくいことなどもあると考えられる。<br/>                     ② 能動的な情報発信や、プレスリリース戦略にまだ工夫の余地がある。具体的には、地粉麺の販売開始など、細かいてきごとでもきちんとプレスリリースすることで、新聞等に取り上げられる可能性があったと考えられること。(平塚市の「ひらつかカオリ麺」は蒸し麺の販売開始時に神奈川新聞の記事に掲載されていたことなどから)</p>  |      |        | <p>地産地消の取り組みによるシティプロモーションは実践できているものの、市内商業や観光産業へ経済効果を波及させるまでの仕組み作りが十分にはできなかった。</p>   |           |        |           |  |
|  | 対応策   | <p>① 飲食店のニーズに合わせた新しいレシピでの地粉麺の開発を検討する。(生タイプ、多加水麺、塩分少なめ、など)少ロットでの提供が可能かどうかなども含め、市内及び近隣地域の製麺所と検討する。合わせて飲食店に、自店メニューで取り入れることを考えるとしたら、どのような要素が重要になるかなど、ヒアリングを行い方法を検討する。<br/>                     ② 本事業がスタートした2009年頃に比べて、食による地域活性化やシティプロモーションを取り巻く環境も変化してきていることから、再度他市や他事例のプロモーション戦略を調査して学び、効果的な情報発信を行えるようにしていきたい。また、よりこまめなプレスリリースや、「ネタづくり」を仕掛けていきたい。</p>   |      |        | <p>藤沢商工会議所や(社)藤沢市商店会連合会といった関係団体との連携を強化し、取り扱い飲食店の拡大やビジネスマッチング等により、更なる商業、観光面での経済効果を期待したい。</p>   |           |        |           |  |
| 5. 今後の取組(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて) | <p>本事業は、2009年度から1年度ずつ3年度にわたって協働事業として実施してきた。今後は新たなフェーズへと移行し、団体の自主事業として継続、発展させていくことを考えている。中でも、昨年度に開始したコミュニティカフェでの販売提供を、少しずつ拡大(場所、日数など)できるよう、事業を手掛けていくことを考えている。一方、自主事業となりながらも、市との協働事業で誕生したプロモーションの方策であることを大切にしながら、引き続き市と内容的な連携を持っていきたい。同時に、あくまで公的なプロモーションツールとして、藤沢に関わるさまざまな人々を取り込み、巻き込んで行くことをミッションのひとつとしたい。</p>  |  |      |        |   |           |        |           |  |
| 6. 講評(市民活動推進委員会からの意見等)                       | <p>・実施団体の成果は強調されているが、参加事業者の反応が見えない。地産・地消の普及は行政が面的にリードする局面であり、当該事業をその一環として捉えられる。麺にこだわることでもなく、はやりのXX級グルメを生む事でもない、イベントで行列をつくる事でもない。地産の食材で、街なかのお店に行列ができるようにしたいものです! 夢のような話ですが、当該事業がその一歩になればよいのですが。<br/>                     ・藤沢の周知に寄与されて良かったと思います。今後も継続してほしい。・協働事業として立ち上げた活動がどこに向かうかが興味があります。<br/>                     ・藤沢の知名度も上がり「藤沢炒麺」を雑誌などで見かけるようになりました。プロモーションも活発であり、ツイッターやFacebookの活用を通じ団体と市だけでなく幅広く市民や興味ある方(市外の方)を作られている素晴らしい活動であると思いました。<br/>                     ・事業の成果が求められる事業である。色々な活動を精力的に行い、メディアにも多く取り上げられているが、それがどのような成果を生んだかを検証する方法を明確に実施することが求められる。自己満足にならないように。市民・県民への認知・利用の実態はどうか?<br/>                     ・地域魅力さんの課題に対する考え方は良いのかもしれませんが、具体的な活動や予算執行等各担当との協働がどの事業でも気になりました。・地産地消を進めていく上でもその料理を通じ生産量を増やすことができるような食材の選択が必要。<br/>                     ・3年間の活動で、認知度は高まったと思いますが、事業そのものはまだまだ発展途上ではないでしょうか。地産地消の意義がもっと広がるといいですね。</p> |  |      |        |   |           |        |           |  |

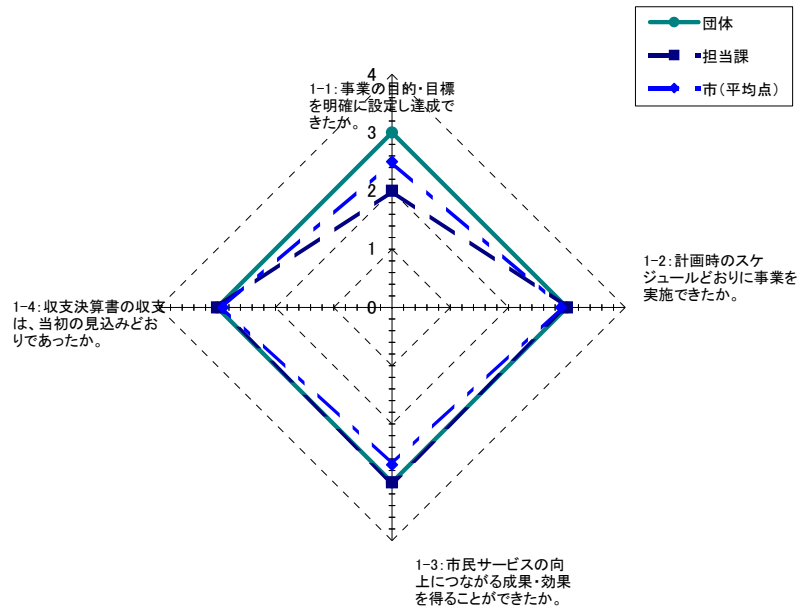
|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 事業名 | 藤沢の「食」によるシティプロモーション発展事業 |
| 団体名 | (特非)地域魅力                |
| 担当課 | 産業振興課                   |

【採点基準】

|           |   |
|-----------|---|
| できなかった    | 0 |
| あまりできなかった | 1 |
| ほぼできた     | 2 |
| できた       | 3 |
| 非常によくできた  | 4 |

1、事業結果の振り返り(効果・成果)

| 設問  | 内容                             | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|--------------------------------|----|-----|--------|
| 1-1 | 事業の目的を明確に設定できていたか。             | 3  | 2   | 2.50   |
| 1-2 | 計画時のスケジュールどおりに事業を実施できたか。       | 3  | 3   | 2.90   |
| 1-3 | 市民サービスの向上につながる成果・効果を得ることができたか。 | 3  | 3   | 2.70   |
| 1-4 | 収支決算書の収支は、当初の見込みどおりであったか。      | 3  | 3   | 2.90   |



2、協働の原則からの振り返り

| 設問  | 内容                                    | 団体 | 担当課 | 市(平均点) |
|-----|---------------------------------------|----|-----|--------|
| 2-1 | 対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。 | 4  | 4   | 3.50   |
| 2-2 | 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。    | 4  | 4   | 3.40   |
| 2-3 | 相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。  | 4  | 4   | 3.40   |
| 2-4 | 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。         | 4  | 4   | 3.30   |
| 2-5 | 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。 | 4  | 4   | 3.40   |

